

**【表紙】**

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成27年3月31日
【事業年度】	第29期（自平成26年1月1日至平成26年12月31日）
【会社名】	日本和装ホールディングス株式会社
【英訳名】	NIHONWASOU HOLDINGS, INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 吉田 重久
【本店の所在の場所】	東京都千代田区丸の内一丁目2番1号
【電話番号】	03 - 3216 - 0070（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 菅野 泰弘
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区丸の内一丁目2番1号
【電話番号】	03 - 3216 - 0070（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 菅野 泰弘
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

## 第1【企業の概況】

## 1【主要な経営指標等の推移】

## (1) 連結経営指標等

回次	第25期	第26期	第27期	第28期	第29期
決算年月	平成22年12月	平成23年12月	平成24年12月	平成25年12月	平成26年12月
売上高 (千円)	6,310,553	6,538,175	5,467,015	6,056,050	5,776,497
経常利益又は経常損失 ( ) (千円)	516,782	328,433	327,679	434,132	401,300
当期純利益又は当期純損失 ( ) (千円)	356,463	150,257	233,875	236,149	503,446
包括利益 (千円)	-	150,371	236,076	234,729	542,961
純資産額 (千円)	3,004,634	3,020,210	2,651,640	2,840,541	2,212,901
総資産額 (千円)	4,966,808	5,322,976	5,442,006	8,166,214	7,735,703
1株当たり純資産額 (円)	33,377.41	33,547.84	294.25	312.24	245.19
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額 (円)	3,959.83	1,669.15	25.98	26.23	55.93
潜在株式調整後1株当たり当期 純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	60.5	56.7	48.7	34.4	28.5
自己資本利益率 (%)	12.3	5.0	8.3	8.7	20.1
株価収益率 (倍)	8.18	17.49	-	10.64	-
営業活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	498,555	1,208,207	5,231	1,487,525	673,721
投資活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	418,774	341,390	8,198	184,661	249,082
財務活動によるキャッシュ・フ ロー (千円)	179,438	412,851	379,427	2,171,991	148,738
現金及び現金同等物の期末残高 (千円)	2,012,425	875,794	1,267,773	1,781,842	1,011,985
従業員数 (人)	158	162	150	161	146
(外、平均臨時雇用者数)	(120)	(113)	(99)	(101)	(100)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第25期、第26期及び第28期連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 第27期連結会計年度から、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分)を適用しております。当該会計方針の変更は遡及適用され、第26期連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、遡及処理の結果、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第27期及び第29期連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在するものの、1株当たり当期純損失金額であるため記載しておりません。
5. 第27期及び第29期連結会計年度の株価収益率については、1株当たり当期純損失金額であるため記載しておりません。
6. 平成25年7月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。そのため、第27期連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額を算定しております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第25期	第26期	第27期	第28期	第29期
決算年月	平成22年12月	平成23年12月	平成24年12月	平成25年12月	平成26年12月
売上高 (千円)	5,914,533	5,970,839	5,167,112	5,786,951	5,315,302
経常利益又は経常損失 ( ) (千円)	515,394	229,952	344,511	430,568	297,698
当期純利益又は当期純損失 ( ) (千円)	278,322	96,832	268,579	178,287	500,527
資本金 (千円)	459,634	459,634	459,634	459,634	459,634
発行済株式総数 (株)	90,020	90,020	90,020	9,002,000	9,002,000
純資産額 (千円)	3,066,759	3,028,796	2,627,723	2,806,411	2,213,441
総資産額 (千円)	4,156,237	4,462,895	4,255,356	4,008,249	3,096,759
1株当たり純資産額 (円)	34,067.54	33,643.21	291.60	311.40	245.80
1株当たり配当額 (円)	1,500.00	1,500.00	500.00	8.00	5.00
(うち1株当たり中間配当額)	(500.00)	(500.00)	(500.00)	(-)	(2.00)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 (円)	3,091.78	1,075.68	29.84	19.81	55.60
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	73.8	67.9	61.7	69.9	71.5
自己資本利益率 (%)	9.3	3.2	9.5	6.6	20.0
株価収益率 (倍)	10.48	27.14	-	14.08	-
配当性向 (%)	48.5	139.4	-	40.4	-
従業員数 (人)	152	139	142	153	141
(外、平均臨時雇用者数)	(96)	(89)	(84)	(88)	(86)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第25期、第26期及び第28期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 第27期から、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分)を適用しております。当該会計方針の変更は遡及適用され、第26期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、遡及処理の結果、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第27期及び第29期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在するものの、1株当たり当期純損失金額であるため記載しておりません。

5. 第27期及び第29期の株価収益率及び配当性向については、1株当たり当期純損失金額であるため記載しておりません。

6. 平成25年7月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。そのため、第27期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額を算定しております。

7. 第28期の1株当たり配当額には、特別配当5円を含んでおります。

## 2【沿革】

当社の現在の事業内容等は、平成15年10月に当社代表取締役社長吉田重久の個人事業を営業譲受したこと等により、構築されております。個人事業の営業譲受前と営業譲受後の主な変遷は、次のとおりであります。

(個人事業営業譲受前)

年月	事項
昭和59年3月	現代表取締役社長 吉田重久がデリコ(個人事業、舶来品輸入販売業)創業
昭和61年7月	有限会社デリコ(舶来品輸入販売業)設立(福岡市南区)、資本金100万円
平成5年12月	有限会社デリコの目的に和装品の販売及び着物の加工・仕立業等を追加し、商号を有限会社九和会に変更
平成8年6月	有限会社九和会を株式会社吉田商店に組織変更(資本金1,000万円)
平成8年7月	大阪市北区に大阪支店、東京都千代田区に東京支店を設置
平成9年9月	広島市中央区に広島支店を設置
平成10年5月	名古屋市中区に名古屋支店を設置
平成12年9月	有償第三者割当により増資
平成15年6月	神戸市中央区に神戸支店を設置
平成15年9月	当社と同じ着物の加工・仕立業を北海道・東北地域にて営んでいた株式会社フロムノースを事業効率化のため吸収合併し、札幌市中央区に札幌支店、仙台市青葉区に仙台支店を設置 京都市中京区に京都支店を設置

当社代表取締役社長吉田重久から営業譲受した同氏の個人事業は、昭和62年11月に「九州和装振興協会」を設立したことからはじまっております。

(個人事業営業譲受後)

年月	事項
平成15年10月	吉田重久の個人事業である日本和装振興協会及び日本和裁技術院を営業譲受し、日本和装振興協会(九州局(現「福岡局」)、関西局(現「大阪局」)、関東局(現「東京局」)、中国局(現「広島局」)、北海道局(平成26年12月閉鎖)、東海局(現「名古屋局」)、東北局(「仙台局」に名称変更、平成26年12月閉鎖)、南関東局(現「横浜局」)、北関東局(現「さいたま局」)、阪神局(現「神戸局」)、京滋局(現「京都局」)、北信越局(「新潟局」に名称変更、平成26年12月閉鎖)、東関東局(現「千葉局」)、北陸局(平成26年12月閉鎖)の14拠点)の無料きもの着付教室の事業、日本和裁技術院の和装縫製業並びに和装縫製の教育指導の事業を追加
平成15年12月	商号を株式会社ヨシダホールディングスに変更 事業効率化のため大阪支店、広島支店、名古屋支店、神戸支店、札幌支店、仙台支店、京都支店を廃止し、日本和装振興協会の各局の事業所と統合
平成16年1月	内部取引解消及び事業効率化のため、日興企業株式会社(賃貸不動産の管理業)を吸収合併 個人事業より営業譲受けをした日本和装振興協会の事業名称を「日本和装」に改称
平成16年4月	高知県高知市に「高知局」(平成21年2月に閉鎖)を設置 内部取引解消及び事業効率化のため、株式会社ワイズ・アソシエイツ(広告宣伝代理店業)、株式会社日本和装文化研究所(着付教室に関する経営指導・業務)、有限会社もりぐち(染物の卸悉皆業)、有限会社吉田プロフェッショナル・サービス(和服及び和装品の卸し、販売業)、有限会社ワソウ・ドットコム(データ管理・分析業)の5社を吸収合併
平成16年10月	砂研株式会社(土壌改良材の製造販売業、平成17年7月「株式会社バイオメンター」に商号変更)の株式を100%取得し子会社とする
平成16年10月	着物の加工工程管理を一元化するため、京都市下京区に「糸の匠センター」を設置
平成16年12月	フランチャイズの設置(「宇都宮局」(栃木県宇都宮市)、「高松局」(香川県高松市))
平成17年1月	愛媛県松山市に「愛媛局」(平成21年2月閉鎖)、福島県郡山市に「福島局」(平成21年9月「郡山局」に名称変更、平成26年12月閉鎖)、静岡県静岡市(現葵区)に「静岡局」を設置
平成17年3月	群馬県高崎市に「群馬局」を設置(平成26年12月閉鎖)
平成17年9月	茨城県水戸市に「茨城局」を設置(平成21年10月茨城県つくば市に移転、平成26年12月閉鎖)
平成18年1月	フランチャイズにより「鹿児島局」(鹿児島県鹿児島市)を設置 長野県長野市に「信州局」(平成21年2月閉鎖)、山梨県中巨摩郡昭和町に「甲府局」(平成20年9月甲府市に移転、平成21年2月閉鎖)、東京都立川市に「立川局」(平成20年2月に「新宿局」と統合)を設置

年月	事項
平成18年5月	商号を日本和装ホールディングス株式会社に変更
平成18年5月	フランチャイズ「高松局」を直営に変更
平成18年6月	岡山市北区に「岡山局」を設置
平成18年8月	フランチャイズ「宇都宮局」を直営に変更（平成20年2月に「さいたま局」と統合、平成26年12月閉鎖）
平成18年9月	ジャスダック証券取引所に株式を上場
平成18年10月	岩手県盛岡市に「岩手局」（平成21年2月閉鎖）を設置
平成19年3月	京都市下京区に「マーチャンダイジング局」を設置
平成19年3月	当社の100%出資により、日本和装ホールセラーズ株式会社（和装文化に関する情報サービスの提供）を設立（平成24年3月株式会社はかた匠工芸に商号変更、現・連結子会社）
平成19年5月	当社の100%出資により、日本和装クレジット株式会社（割賦販売斡旋業）を設立（現・連結子会社）
平成19年7月	本店を東京都千代田区に移転（東京支店を廃止）
平成19年9月	秋田県秋田市に「秋田局」（平成21年2月閉鎖）を設置
平成19年10月	青森県青森市に「青森局」（平成21年2月閉鎖）を設置
平成19年11月	当社の100%出資により、日本和装マーケティング株式会社（常設型店舗の運営）を設立
平成20年2月	東京都新宿区に「新宿局」を設置
平成20年3月	当社の100%出資により、NIHONWASOU USA, INC.（米国でのきもの関連事業）を設立（現・連結子会社）
平成20年4月	株式会社バイオメンター解散（平成20年9月清算終了）
平成20年6月	東京都中央区に複合的研修施設「アスアル研修センター」（平成23年5月閉鎖）設置
平成21年3月	日本和装ホールセラーズ株式会社にて、織物の製造販売を開始
平成21年3月	日本和装ホールセラーズ株式会社の25%出資により、博多織物協同組合（平成26年7月に伝統絹織物産地協同組合に名称変更）を設立
平成21年7月	フランチャイズ「鹿児島局」を直営に変更（平成26年12月閉鎖）
平成21年9月	福島県福島市に「福島局」を設置（平成26年12月閉鎖）
平成22年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQ市場に上場
平成22年5月	日本和装マーケティング株式会社を吸収合併
平成22年7月	日本和装ホールセラーズ株式会社の100%出資により、瀧日弘子事務所株式会社（和服及び和装品の販売促進）を設立（平成23年10月日本和装メンズ株式会社に、平成25年11月日本和装ダイレクト株式会社に商号変更、現・連結子会社）
平成22年10月	浜松市中区に「浜松局」を設置
平成23年11月	当社の100%出資によりNihonwasou(Thailand)Co.,Ltd.（タイ国でのきもの関連事業）を設立（現・連結子会社）
平成23年12月	北九州市小倉北区に「関門局」を設置（平成26年12月閉鎖）
平成24年2月	東京証券取引所市場第二部に株式を上場
平成24年4月	当社の90%出資により、株式会社メインステージ（着物専門のモデルエージェンシー事業）を子会社化（現・非連結子会社）
平成24年5月	大阪証券取引所JASDAQ市場上場廃止
平成24年12月	東京都港区に「品川局」を設置
平成24年12月	熊本市中央区に「熊本局」を設置（平成26年12月閉鎖）
平成24年12月	当社の100%出資により、NIHONWASOU FRANCE SAS（仏国でのきもの関連事業）を設立（現・連結子会社）
平成25年6月	当社の100%出資により、NIHONWASOU VIETNAM Co.,Ltd.（ベトナム国でのきもの関連事業）を設立（現・連結子会社）
平成25年8月	宮城県宮崎市に「宮崎局」を設置（平成26年12月閉鎖）
平成26年4月	山口県山口市に「山口支部」を設置（平成26年12月閉鎖）
平成26年7月	株式会社はかた匠工芸が東京証券取引所TOKYO PRO Marketに株式を上場
平成26年9月	当社の100%出資により、Nihonwasou International Business Head Quarter株式会社（海外子会社株式の保有及び経営管理）を設立（現・連結子会社）

### 3【事業の内容】

当社グループは、当社と連結子会社である株式会社はかた匠工芸、日本和装クレジット株式会社他7社並びに非連結子会社である株式会社メインステージにより構成されており、きもの関連事業を主たる業務としております。当社グループの事業内容及び当社と各子会社の当該事業に係る位置付けは以下のとおりであります。

なお、セグメント情報を記載していないため、事業の種類別に記載しております。

#### (1) きもの関連事業

当社グループは、文化ビジネス創造企業として、「『教える』又は『伝える』というプロセスなしでは、流通がスムーズに展開しない商品及び衰退もしくは消滅しかねない商品」の技術及び産業の継続を支援する活動を通して、単なる小売業ではなく、仲介の新業態としてのビジネスモデルを確立しております。

きもの関連事業の中でも中核的な「日本和装」事業は、着物文化のPR活動として、着物を「着ることを教え、着物を「着る機会」をつくり、着物の「物の価値」を伝えることにより、着物文化の普及啓発と販売仲介業務を行うものであります。

「日本和装」事業では、当社が、新規顧客（「無料きもの着付教室」の受講生）向けに着付け教室を運営し、また、既存顧客（「無料きもの着付教室」の卒業生）向けに、より上級の着付け教室や各種イベントを企画することで、当社と販売業務委託契約を締結した全国の着物や帯のメーカー、和装品全般の総合卸売業者及び生産者組合等（以下、「契約企業」という。）が、受講生や卒業生に販売する機会を提供しております。

受講生や卒業生への販売主体はあくまで各契約企業であります。当社は中立の立場で、各契約企業の取扱商品の品質、価値及び価格に配慮しながら仲介業務に取り組んでおります。また、受講生や卒業生の購入した着物等の加工から納品までの一貫した工程管理を各契約企業から請負っております。

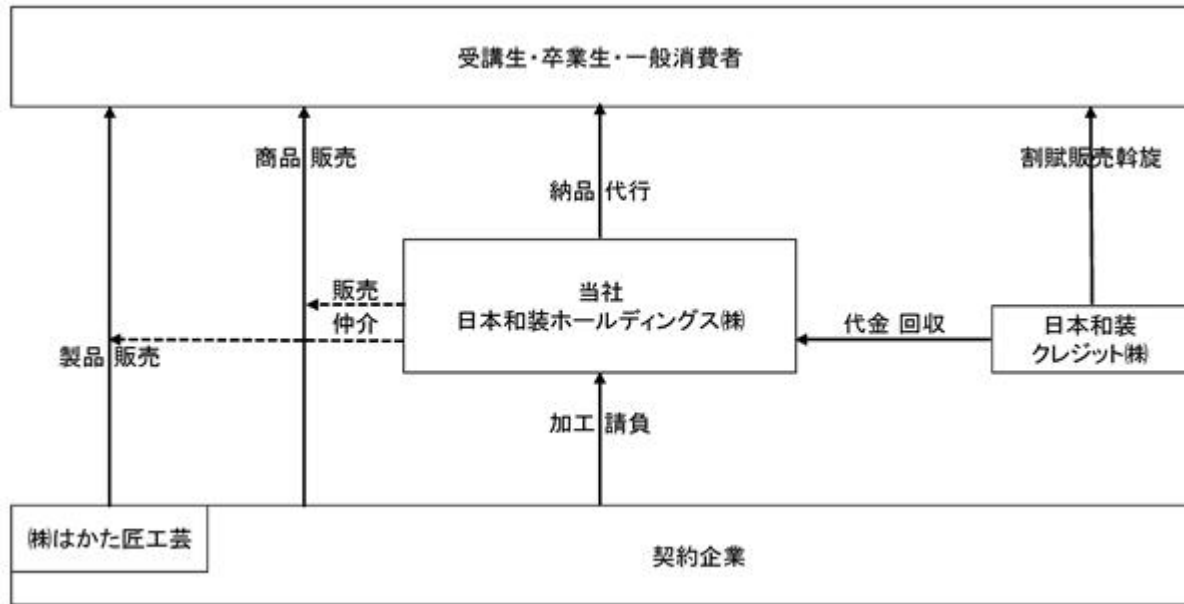
- ・ 日本和装ホールディングス株式会社（当社）  
「日本和装」事業の中核的な位置付けであり、グループ全体の経営管理を行っております。
- ・ 株式会社はかた匠工芸（連結子会社）  
織物の製造を行い「日本和装」事業の契約企業として、受講生や卒業生に製品の販売を行っております。  
また、「男きもの専門店SAMURAI」の運営主体であります。
- ・ 日本和装クレジット株式会社（連結子会社）  
受講生や卒業生の代金決済の利便性を向上させ、「日本和装」事業とのシナジー効果を最大限にあげることを目的に設立され、割賦販売斡旋業を営んでおります。
- ・ 日本和装ダイレクト株式会社（連結子会社）  
受講生や卒業生及び一般消費者に向けて、和装小物を中心とした通信販売事業を営んでおります。
- ・ Nihonwasou International Business Head Quarter株式会社（連結子会社）  
海外子会社の株式保有と経営管理を行っております。
- ・ NIHONWASOU USA, INC.（連結子会社）  
日本のきもの文化を世界に発信する拠点として米国ニューヨーク市に設立され、和服を利用した家具の製造販売を展開しております。
- ・ Nihonwasou(Thailand)Co.,Ltd.（連結子会社）  
タイ王国において和服縫製業を営んでおります。
- ・ NIHONWASOU VIETNAM Co.,Ltd.（連結子会社）  
ベトナム社会主義共和国における和服縫製に関する生産管理コンサルティング業及び和服を利用した家具等の企画デザイン及び生産管理コンサルティング業を営んでおります。
- ・ Nihonwasou Trading Co.,Ltd.（連結子会社）  
ベトナム社会主義共和国において和服縫製業を営んでおります。なお、当社及び子会社からの出資はありませんが、取引関係において緊密な関係がある者の出資が100%でありますので、子会社としております。
- ・ NIHONWASOU FRANCE SAS（連結子会社）  
ヨーロッパにおける和服を利用した家具等の販売拠点としてフランスに設立されました。

#### (2) その他の事業

当社グループの中で「その他の事業」として分類しているのは、日本和装クレジット株式会社が営んでいる金銭貸付業のみであります。

## 【事業系統図】

以上述べた事業の内容を事業系統図によって示すと次のとおりであります。



## 4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社はかた匠工芸 (注) 2	福岡県大野城市	108,850	きもの関連事業 (織物の製造販売)	77.2	当社サービスの提供
日本和装クレジット株 式会社(注) 2	東京都千代田区	100,000	きもの関連事業 (割賦販売斡旋業)	100.0	割賦販売斡旋業に係 る役務の受入れ 債務保証 役員の兼務 2名
その他 7社					

(注) 1. 「主要な事業の内容」欄には、事業の種類を記載しております。

2. 特定子会社に該当しております。

## 5【従業員の状況】

セグメント情報を記載していないため、事業の種類ごとに示すと次のとおりであります。

## (1) 連結会社の状況

平成26年12月31日現在

種類	従業員数(人)
きもの関連	124 (89)
全社(共通)	22 (11)
合計	146 (100)

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマー、アルバイト及び契約社員を含む。)は、( )内に年間の平均人員(1日8時間換算)を外数で記載しております。

2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定の事業の種類に区分できない本社部門に所属している従業員数であります。

## (2) 提出会社の状況

平成26年12月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
141 (86)	41.5	5.5	4,526,927

種類	従業員数(人)
きもの関連	123 (77)
全社(共通)	18 (9)
合計	141 (86)

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマー、アルバイト及び契約社員を含む。)は、( )内に年間の平均人員(1日8時間換算)を外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3. 全社(共通)として記載されている従業員数は、特定の事業の種類に区分できない本社部門に所属している従業員数であります。

## (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円滑に推移しております。



## 第2【事業の状況】

### 1【業績等の概要】

#### (1)業績

当社グループが仲介を行う着物業界におきましては、作り手の高齢化など依然として課題は多く残るものの、長年縮小傾向にあった小売市場では下げ止まり感が見受けられております。

このような業界環境のなか、当連結会計年度における当社グループの事業は次のとおり経過しました。

#### 「無料きもの着付教室」の卒業生（会員様）に対する施策について

当社グループは、平成24年度より「顧客参加型企業」を基本方針に定めた施策を実施して参りました。会員様が参加し、楽しんでいただける企画を次々と提案することが、会員様からの信頼度・愛着度の向上に繋がり、営業成績に寄与して参りました。

当連結会計年度におきましても、恒例のイベント「遊々会（ゆうゆうかい）」を海外で開催したり、きものファッションショー「きものプリリアンツ全国大会」を3日間にわたり規模を拡大して開催するなど、例年以上に高級感・高揚感を演出したイベントを実施しました。その結果、購入単価の向上や、1イベントにおける取扱高が過去最高額を記録するなどの効果があがり、第2四半期累計期間までの営業成績は順調に推移しました。

しかしながら、第3四半期以降に開催したイベントにおいては、第2四半期累計期間同様の推移を見込んで取り組みましたが、4月の消費税率引き上げの影響もあり、高額商品の個人消費が低迷した結果、取扱高は予想を下回りました。特に、第4四半期では、イベントを積極的に開催することで、取扱高の補てんと利益の確保を目指しましたが、結果的に、先行支出した諸経費に見合う取扱高に及びませんでした。

#### 「無料きもの着付教室」の受講生に対する施策について

将来的に当社グループの会員様となる「無料きもの着付教室」の新規受講生については、1月から3月にかけて募集した春の教室で例年通りの受講生数が集まり、この受講生を対象に4月から6月に開催した販売機会での取扱高は順調に推移しました。しかしながら、8月から9月にかけて募集した秋の教室では広告戦略が奏功せず、新規受講生数が減少した結果、開講教室数も当初予定を下回りました。加えて、販売機会1回当たりの取扱高が予想を下回った結果、受講生募集のために先行支出した広告宣伝費に見合う取扱高に及びませんでした。

また、当連結会計年度末に実施した営業拠点の統廃合に伴い、廃止拠点における秋の教室では、受講生が年内で卒業できるようにカリキュラムを前倒しました。これにより、着付け講師の報酬等の諸経費が当連結会計年度内で増加し、一部の教室では販売機会の中止が発生しました。

#### 拠点の統廃合について

人材を含む経営資源を大都市圏に集中することを目的に、営業拠点の統廃合を11月に決定し、当連結会計年度末に実施しました。近年の都心回帰といえる大都市圏での人口増加を踏まえ、女性の生産年齢人口（15歳～64歳）の多い地域に経営資源を集中することで、「無料きもの着付教室」の新規受講生についても効率的な募集が見込めると判断したためです。

次期の初めから新体制で運営するため、廃止拠点は当連結会計年度内で営業を終了しました。これにより、固定資産の除却や、拠点の撤退費用等を当連結会計年度で認識しました。

#### 連結子会社の状況について

日本和装クレジット株式会社（当社グループのお客様向けショッピングローン事業）が好調に推移しました。

株式会社はかた匠工芸（博多織の製造販売業）は、4月に「男きもの専門店SAMURAI」を東京銀座、京都祇園に出店し、いままでにない「男きもの専門店」として好評をいただきながら、男きもの市場の開拓を進めており、7月15日には東京証券取引所TOKYO PRO Marketに上場しました。

海外子会社においては、ベトナムでの縫製事業が本格化し、当社グループの売上原価（着物や帯の縫製に係る費用）の減少に寄与し始めました。また、新たに「和」を意識した家具を欧米で販売することを企画し、事業化に向けての市場調査を始めました。

なお、これらの海外子会社を統括して管理する目的で、9月にはNihonwasou International Business Head Quarter株式会社を、国内子会社として設立しました。

これらのことから、当社グループの売上高については5,776百万円（前連結会計年度比4.6%減）となりました。

販売費及び一般管理費については、「無料きもの着付教室」の新規受講生募集に係る広告宣伝費の計上や、会員様向けのイベント開催に係るダイレクトメール代や会場代等の経費の増加、旅費交通費や人件費の増加に加え、株式会社はかた匠工芸の上場や男きもの事業の展開、海外子会社における家具の企画開発などにより増加しました。また、株式会社はかた匠工芸で、在庫商品の評価損を売上原価に計上する等により損失が増加しました。この結果、営業損失は294百万円（前連結会計年度は営業利益508百万円）となりました。

営業外損益では、日本和装クレジット株式会社の運転資金の借入金利息を54百万円計上、資金調達手数料として支払手数料を49百万円計上したこと等により、経常損失は401百万円（前連結会計年度は経常利益434百万円）となりました。

特別損益では、東京銀座の着付け教室としてテナント契約していた賃貸物件が耐震工事のため、退去を求められたことによる受取補償金42百万円を利益計上する一方で、営業拠点の統廃合に伴う固定資産の除却や撤退費用等、合わせて269百万円を損失計上しました。

法人税等は、法人税、住民税及び事業税を計上するとともに、法人税等調整額を計上した結果、マイナス91百万円（前連結会計年度は206百万円）を計上いたしました。

これらの結果、当期純損失は503百万円（前連結会計年度は当期純利益236百万円）となりました。

なお、当社グループは、和服及び和装品の販売仲介を中心としたきもの関連事業の単一セグメントであるため、セグメント情報ごとの記載を省略しております。

## (2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は、1,011百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローは、次のとおりであります。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において営業活動の結果使用した資金は673百万円（前年同期は1,487百万円の使用）となりました。これは主に、税金等調整前当期純損失が624百万円、営業未収入金の減少207百万円、割賦売掛金の増加264百万円等によるものであります。

### （投資活動におけるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において投資活動の結果使用した資金は249百万円（前年同期は184百万円の使用）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出214百万円等によるものであります。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において財務活動の結果獲得した資金は148百万円（前年同期は2,171百万円の獲得）となりました。これは主に短期借入金の純減少額598百万円、長期借入による収入2,000百万円、長期借入金の返済1,062百万円、社債の償還100百万円、配当金の支払90百万円を行ったことによるものです。

## 2【生産、受注及び販売の状況】

### (1) 生産実績

当社グループは、一部織物の製造及び販売を行っておりますが、主として仲介業であるため、生産実績の記載を省略しております。

### (2) 受注実績

当社グループは、一部織物の製造及び販売を行っておりますが、主として仲介業であるため、受注実績の記載を省略しております。

### (3) 販売実績

当社グループは、和服及び和装品の販売仲介を中心としたきもの関連事業を行う単一セグメントであるため、事業の種類ごとに示すと、次のとおりであります。

種類	当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)	前年同期比(%)
きもの関連(千円)	5,776,344	4.6
その他(千円)	153	18.5
合計(千円)	5,776,497	4.6

(注) 1. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。なお、金額には消費税等は含まれておりません。

相手先	前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)		当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
河瀬満織物株式会社	911,252	15.0	368,322	7.1
となみ織物株式会社	892,837	14.7	939,222	18.1

### 3【対処すべき課題】

#### コスト管理の更なる徹底

「無料きもの着付教室」の受講生を対象とした販売機会（セミナー）での売上が伸び悩んだため、過去の卒業生を対象とした各種大型イベント（遊々会、きものプリリアンツなど）の開催を通じて売上高の増強を狙い、追加の広告・販売促進費を支出した結果、当初経費予算をオーバーする事態となりました。特に遊々会については、初めて海外（フランス・アメリカ合衆国）での企画・開催したこともあり、度重なる内容変更に伴い追加の経費を計上せざるを得ない事態となりましたが、これはコスト管理が十分に機能しなかったことが主因であると考えます。

今後は当初予算策定時に各種イベントごとに計上された関連経費の範囲内での運営に努めるとともに、本社管理グループの体制を強化することで各種要因分析にも取り組み、きめ細かい業績管理を徹底して行きます。

#### 顧客満足度の向上

セミナーでの売上が伸びるためには、授業における顧客満足度の向上が重要であると考えております。

今後は、お客様一人ひとりが手厚い講義を受けられる、個別指導の授業体制を整えて行きます。お客様との対話を深め、それぞれのニーズを的確に捉えることで、セミナーでお客様にご満足いただける販売仲介ができるものと考えております。また、ひとりでも多くの方が、途中退講されることなく卒業できるようサポートを充実させることで、将来の会員様として長いお付き合いに繋げる努力をして参ります。

#### 人材育成と組織体制の確立

新たな拠点展開を支えるに十分な人材の育成が伴わず、各階層ごとの人材不足もあり当初想定していた営業力を強化することができませんでした。

今後は人材育成のための社内研修を充実させるとともに、統合後の新しい拠点に集中配置することで組織としての営業力を増強して行きます。特に当社ビジネスモデルを支える人材である着付け講師、生産者及び当社営業担当者の三位一体となった営業体制の確立が重要だと考えております。

#### コーポレートガバナンス体制の強化

当社のみならず子会社を含めた企業グループとして相応しいコーポレートガバナンス体制のあり方をさらに追求して行く所存です。当社は、2年前からすでに社外取締役を選任しており、引続き社外役員の更なる活用により経営の透明性・客観性を高めるべく不断の努力を行って参ります。

#### 海外事業展開の見直し・整理

当社100%出資海外子会社NIHONWASOU USA, INC.、Nihonwasou(Thailand)Co.,Ltd.、NIHONWASOU FRANCE SAS、NIHONWASOU VIETNAM Co.,Ltd.、Nihonwasou Trading Co.,Ltd.の5社の海外事業を統括・管理するために、Nihonwasou International Business Head Quarter株式会社を設立しましたが、今後は順調なベトナムでの縫製事業を除き、改めて海外事業の見直し・検証が必要だと考えております。

海外事業も本来のきもの関連に最注力することで、当社グループ全体の業績伸展に寄与させて行きます。

#### 男きもの市場の開拓

きもの市場のなかでも男性向けきもの市場は、大いに開拓の余地があると考えております。

すでに、子会社が運営体となり「男きもの専門店SAMURAI」を出店することで、小売市場に進出しておりますが、今後はさらに、当社グループをあげて、男性がきものを着る機会の創出や、男きものPRを充実させることで、日本和装事業で開拓して参りました女性きもの市場との相乗効果を期待した、きもの市場の拡大を目指す所存です。

#### サービス関連業務の強化

きもの販売仲介との相乗効果が期待されるビジネスとして、販売仲介に付随して生じる各種アフターサービス（丸洗いなどのクリーニングサービス、各種お手入れサービス、保管サービスなど）を充実・強化させることで、単に販売仲介するだけでなくお客様との長いお付き合いの機会を創出し、新たなビジネスチャンスを捕捉して行きたいと考えております。

## 4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。なお、文中の将来に関する事項は、当有価証券報告書提出日現在において当社グループが判断したものであります。

### (1) 「日本和装」事業への依存度が高いことについて

「日本和装」事業では、当社が、新規顧客（「無料きもの着付教室」の受講生）向けに着付け教室を運営し、また、既存顧客（「無料きもの着付教室」の卒業生）向けに、より上級の着付け教室や各種イベントを企画することで、当社と販売業務委託契約を締結した全国の着物や帯のメーカー、和装品全般の総合卸売業者及び生産者組合等（以下、「契約企業」という。）が、受講生や卒業生に販売する機会を提供しております。

受講生や卒業生への販売主体はあくまで各契約企業であります。当社は中立の立場で、各契約企業の取扱商品の品質、価値及び価格に配慮しながら仲介業務に取り組んでおります。また、受講生や卒業生の購入した着物等の加工から納品までの一貫した工程管理を各契約企業から請負っております。

当社の主たる収入は、これら一連の「日本和装」事業において、各契約企業から受領する手数料であります。よって、「日本和装」事業のビジネスモデルが、社会情勢及び文化の激変等により一般に展開できなくなった場合、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

### (2) 当社代表取締役社長吉田重久への依存度について

当社の代表取締役社長吉田重久は、当社のビジネスモデルの考案者であり、現在のビジネスのベースは同氏が築いたものであります。そのため、経営方針や事業戦略の決定等において、当社事業の中心的役割を担っております。

何らかの理由により同氏が社長としての業務遂行ができない状況に陥った場合、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

### (3) 類似業者の違法販売による社会的イメージダウンについて

「無料きもの着付教室」の形態をまねた類似業者による、いわゆる押し売りやキャンセル受付の違法拒否等、違法販売行為がマスコミ等に取り上げられるケースが見受けられます。

当社では消費者からのクレーム受付及び相談窓口を「お客様サポートセンター」に一本化し、キャンセルや各種相談には即座に対応できる体制を整えております。

また、当社は、販売主体である各契約企業に対して万全のコンプライアンス（消費者保護ルール遵守）体制の最優先を求めており、消費者の方々が商品の選別及び検討を充分に行うことができる環境をつくるため「きもの安心宣言」を掲げ、消費者第一主義の営業姿勢をより一層明確にしております。

しかしながら、当社が類似業者と混同され、一般消費者に当社と違法業者の区別を理解していただけなかった場合、「無料きもの着付教室」の受講生の応募数減少等の影響が出る可能性があります。

### (4) 風評のリスクについて

当社は、「(3) 類似業者の違法販売による社会的イメージダウンについて」にも記載したように、販売主体である各契約企業に対して万全のコンプライアンス体制の最優先を求めておりますが、既契約企業が経営環境の変化や経営者の交代などにより、当社のコンプライアンス基準を満たさない状態になった場合には、消費者保護の観点から、当社が取引を停止する可能性があります。

このような当社の営業姿勢が、契約企業に十分に理解されず、事実と異なる又は歪曲された情報として流布した場合には、業界や一般消費者に対する当社の信用低下を招き、受講生の応募数減少等、当社の事業に影響を及ぼす可能性があります。

### (5) 広告宣伝活動について

現在「日本和装」事業の中心は、「無料きもの着付教室」の展開であります。各開催期において受講生募集には各種媒体を利用して広告宣伝を行っております。当事業の収入は各契約企業が受講生に対して販売活動を行った際に発生する各種手数料であります。そのため、受講生募集の広告宣伝活動を行う際には広告代理店との協議を充分に行い、予定定員の確保に向けて、支出した費用に対して十分な効果が現れるよう細心の注意を払いながら広告内容を決定しております。

しかし、受講生募集の広告宣伝が費用に見合った効果を生まず、受講生が予定定員まで達しなかった場合、各契約企業の販売活動を鈍化させ、ひいては当事業に関連する売上高が直接的に影響を受ける可能性があります。

## (6) 人材の確保について

当社グループでは、「日本和装」事業の事業拡大と安定化のためには、当社のビジネスモデルを十分に理解し、その業務に積極的に取り組むことのできる人材の確保が必須の課題となります。このため当社グループでは、ホームページや各種媒体を通じ採用広告を行っております。

人材確保ができない場合、在職社員の兼任や、事業計画の見直しなど労務、財務及び事業展開に影響を及ぼす可能性があります。

## (7) 法的規制等に関する影響について

「日本和装」事業では、消費者からの代金回収の大部分がクレジットによるものです。クレジット業界においては「割賦販売法」の適用を受けており、消費者の支払可能見込額の調査義務や当該見込額を超える与信の禁止等が定められております。これら法令の将来における改正もしくは解釈の変更や厳格化等により、クレジット業界が大きく影響を受ける可能性があります。

これらは、割賦販売斡旋業を行う当社グループ内の日本和装クレジット株式会社においても同様であり、当社グループの業務遂行や業績に影響を及ぼす可能性があります。

## (8) 個人情報の取扱いについて

「日本和装」事業では、受講生募集や、代金の回収にショッピングクレジットを利用した場合等に、個人情報を取り扱うケースがあります。当社グループでは個人情報保護の概念を充分理解し、正しく取り扱うため個人情報保護管理責任者を選任し、全社を挙げて体制の確立及び運用に努めております。

その活動の結果のひとつとして、一般財団法人日本情報処理開発協会から平成17年7月12日付でプライバシーマーク付与認定（認定番号第18740001（05）号、平成25年7月27日更新）を受けております。

しかしながら、外部からの悪意によるハッキング等何らかの原因により情報流出があった場合には、社会的信用の低下や損害賠償の費用支出等、当社の事業展開に影響を受ける可能性があります。

## (9) 調達金利の変動等の影響について

当社グループは、営業活動に必要な資金を金融機関からの借入により調達しております。資金の調達にあたっては、金利変動リスクを最小限にとどめるための施策を講じておりますが、金融市況及び景気動向の急激な変動、その他の要因により当社グループの信用力が低下した場合、調達金利の上昇等、資金調達に悪影響を及ぼす可能性があります。

## (10) 各契約企業への精算方法について

当社は、当社の仲介で各契約企業が自社の取扱商品を消費者に販売した場合、消費者からの代金回収を代行します。代金回収の大部分は、クレジットによりますが、消費者の希望で現金払いの場合には、販売日から一週間以内に一括回収を行い、原則的に入金確認後に加工に取り掛かります。

一方、回収した代金の各契約企業への支払（以下、「精算」という。）は、各契約企業と締結した販売業務委託契約に基づき、当社の仲介手数料等を差引いて、販売日から10日後（以下、「精算日」という。）に行います。

着物業界では代金回収までの期間が長いことが通例であり、各業者の資金繰りの圧迫へとつながっておりますが、当社の仲介による販売の場合、販売日から10日後の回収になることから、各契約企業における流動性の向上に役立てていただいております。

当社の代金回収が、何らかの事由による遅延のため精算日後となる場合においても、各契約企業への精算は当該契約に基づき販売日から10日後に行われます。このため、代金回収の遅延が多額に発生した場合、当社の資金繰り及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

## (11) システムへの依存について

当社グループでは、会計システムや業務の基幹システムを利用し、情報の一元管理を図っております。そのため全国の情報がリアルタイムで更新され、必要部署への伝達が遅滞なく行われており、業務の効率化が図られております。

しかしながら、自然災害によるハードウェアの損壊や、通信インフラの不具合などによりシステムの利用が不可能となった場合には、業務の遂行に影響を受ける可能性があります。

## (12) 着物業界の市場縮小傾向について

当社グループが仲介を行う着物業界におきましては、長年縮小傾向にあった小売市場で下げ止まり感が見受けられておりますが、劇的な回復には及んでおりません。

当社では、「無料きもの着付教室」等の展開において、新たな需要の創出及び市場拡大策（潜在市場の顕在化）を手掛けております。2020年の東京五輪開催を目前に、日本文化が世界から注目されているなか、着物に対して意識のある潜在的な消費者は多いと考えており、切り口を変えれば大きな市場があると考えております。

しかしながら、市場縮小傾向が急激に加速し、各契約企業の販売活動の継続が困難となった場合、当社の事業に影響を及ぼす可能性があります。

## 5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

## 6【研究開発活動】

該当事項はありません。

## 7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

### (1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表及び当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。

これらの作成に当たりましては、債権の回収可能性に関する判断等、過去の実績や状況に応じ合理的と考えられる様々な要因に基づいて行った見積りを含んでおります。

### (2) 当連結会計年度の経営成績の分析

当連結会計年度の業績等の概要は「1業績等の概要」に記載したとおりであります。このうち売上高の減少要因と営業経費の増加要因について、当連結会計年度に実施いたしました営業施策に係り付けて分析すると、以下のとおりであります。

#### 売上高減少の要因

当連結会計年度の販売機会別の対前期比較は下記のとおりです。

- ・ 無料きもの着付け教室（新規受講生）による取扱高が、前期比で511百万円減少
- ・ 卒業生（会員）向け教室による取扱高が、前期比で866百万円減少
- ・ 卒業生（会員）向け販売イベントによる取扱高が、前期比で435百万円増加

この結果、売上高は5,776百万円（前期比4.6%減）となりました。

#### 営業経費増加の要因

営業経費が増加いたしましたのは、主に卒業生（会員）向け販売イベント関連費が増加したことや、海外展開及び子会社上場等によるものです。

（前期比で増加額の大きい費用）

- ・ 卒業生（会員）向け販売イベントの開催に係る会場費、ダイレクトメール費などが前期比180百万円の増加。
- ・ 給与手当、着付け講師の報酬、役員報酬等の人件費が前期比77百万円の増加。
- ・ 縫製事業や海外向け家具の企画開発等、海外子会社の運転資金が前期比75百万円の増加。
- ・ 関西地域を中心に施設の充実として、地代家賃が前期比68百万円の増加。
- ・ 男きもののP R、映画製作及びきものゆるキャラ等企业P Rに係る広告宣伝費が前期比59百万円の増加。
- ・ 株式会社はかた匠工芸のTOKYO PRO Market上場費用、上場維持費用として前期比26百万円の増加。



## (3) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

## 流動性と資金の源泉

当社グループの所要資金は、大きく分けて販売仲介の過程で生じる契約企業への支払資金、割賦販売幹旋業に係る立替資金及び経常の運転資金であります。

これらの資金のうち、契約企業への支払資金については、セミナーやイベントなどの販売機会において消費者が購入した販売代金をいったん当社が受領し、10日後に精算することから、資金の流動性には問題はないと考えております。割賦販売幹旋業に係る立替資金については、所要資金の不足を銀行借入や割賦債権の流動化及び自己資金により調達しております。また、経常運転資金については自己資金により賄っております。

現状、ただちに資金が不足する状況にはありませんが、回収よりも支払が先行する割賦販売幹旋事業については、業況の変化等について十分に考慮し、必要な流動性を確保していく所存であります。

## キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は、1,011百万円となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローは、次のとおりであります。

## （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において営業活動の結果使用した資金は673百万円（前年同期は1,487百万円の使用）となりました。これは主に、税金等調整前当期純損失が624百万円、営業未収入金の減少207百万円、割賦売掛金の増加264百万円等によるものであります。

## （投資活動におけるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において投資活動の結果使用した資金は249百万円（前年同期は184百万円の使用）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出214百万円等によるものであります。

## （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当連結会計年度において財務活動の結果獲得した資金は148百万円（前年同期は2,171百万円の獲得）となりました。これは主に短期借入金の純減少額598百万円、長期借入による収入2,000百万円、長期借入金の返済1,062百万円、社債の償還100百万円、配当金の支払90百万円を行ったことによるものです。

## 資産、負債及び純資産

## （ ）資産

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末から430百万円減少し、7,735百万円（前年同期比5.3%減）となりました。これは、現金及び預金や営業未収入金が減少した一方で、日本和装クレジット株式会社の割賦売掛金の増加や、拠点の統廃合に伴う解約物件の敷金及び保証金を未収入金として計上したこと等により、流動資産が541百万円減少し、固定資産が110百万円増加したことによるものです。

## （ ）負債

当連結会計年度末の負債につきましては、前連結会計年度末から197百万円増加し、5,522百万円（前年同期比3.7%増）となりました。これは主に、日本和装クレジット株式会社の運転資金としての短期借入金を長期借入金に振替えたことや、拠点の統廃合に伴う解約物件の原状回復費用を未払金として計上したこと等により、流動負債が1,313百万円減少、固定負債が1,510百万円増加したことによるものです。

## （ ）純資産

当連結会計年度末の純資産につきましては、前連結会計年度末から627百万円減少し、2,212百万円（前年同期比22.1%減）となりました。これは主に剰余金の配当を90百万円実施し、当期純損失を503百万円計上したことによるものです。

この結果、当連結会計年度末における自己資本比率は28.5%となっております。

## （将来見通しに関する記述について）

上記の本文中、将来に関する事項については提出日現在において判断したものでありますが、多分に不確定な要素を含んでおります。従いまして実際の実績や財政状態等は、業況の変化などにより、本文に記載されている予想とは異なる場合があります。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

設備の増加に関する設備投資に特記すべき事項はありません。

なお、人材を含む経営資源を大都市圏に集中することを目的に、当連結会計年度末をもって営業拠点の統廃合を実施しました。これによる店舗閉鎖損失の総額は241百万円であります。

なお、当社グループは、和服及び和装品の販売仲介を中心としたきもの関連事業の単一セグメントのため、セグメント情報に関連付けた記載を省略しております。（以下「2 主要な設備の状況」及び「3 設備の新設、除却等の計画」においても同じ。）

#### 2【主要な設備の状況】

##### (1) 提出会社

当社における主要な設備は、以下のとおりであります。

平成26年12月31日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (人)
		建物	器具及び備品 (その他)	土地 (面積㎡)	合計	
本社 (東京都千代田区)	統括業務施設	2,151	15,682	-	17,833	18 (9)
糸の匠センター (京都市下京区)	物流拠点施設	1,619	563	-	2,183	14 (37)
日本和裁技術院 (京都市中京区)	加工技術研究指導 施設	6,516	-	12,499 (131.0)	19,015	10 (-)
きものリフレッシュセン ター (京都市中京区)	着物メンテナンス 施設	10,393	-	9,667 (115.2)	20,060	- (2)

(注) 1. 金額には消費税等は含まれておりません。

2. 建物の[ ]内は賃借面積(㎡)であります。

3. 従業員数の( )内は、臨時従業員数の年間平均人員(1日8時間換算)を外書で記載しております。

##### (2) 国内子会社

平成26年12月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)			従業員数 (人)
			建物	土地 (面積㎡)	合計	
株式会社はかた匠工芸	本社 (福岡県大野城市)	帯生産設備	-	63,762 (1,245.0)	63,762	14 (2)
株式会社はかた匠工芸	SAMURAI銀座本店 (東京都中央区)	店舗設備	17,057	-	17,057	- (1)

(注) 1. 金額には消費税等は含まれておりません。

2. 従業員数の( )内は、臨時従業員数の年間平均人員(1日8時間換算)を外書で記載しております。

##### (3) 在外子会社

重要な設備がないため記載を省略しております。

### 3【設備の新設、除却等の計画】

当社グループでは、局及び教室の開設、拡充等について、景気予測、投資効率等を総合的に勘案して当社が中心になって計画を策定しております。

当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、除却等の計画は、次のとおりであります。

#### (1) 重要な設備の新設

会社名	所在地	設備の内容	投資予定金額		資金調達方法	着手及び完了予定年月		完成後の増加能力
			総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
当社	神奈川県 鎌倉市	(注) 1	370,000	239,101	自己資金及び 借入金	平成 22.12	未定	(注) 2

(注) 1 . 設備の内容は、商品展示場を兼ねた会員向け宿泊施設であります。

2 . 完成後の増加能力につきましては、販売のみを目的とした施設ではないため、記載を省略しております。

#### (2) 重要な除却等

該当事項はありません。

## 第4【提出会社の状況】

## 1【株式等の状況】

## (1)【株式の総数等】

## 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	33,000,000
計	33,000,000

## 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年3月31日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	9,002,000	9,002,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 100株
計	9,002,000	9,002,000	-	-

(注) 普通株式は完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。

## (2) 【新株予約権等の状況】

会社法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

平成26年3月28日定時株主総会決議に基づく同日取締役会決議（第8回ストックオプション）

区分	事業年度末現在 (平成26年12月31日)	提出日の前月末現在 (平成27年2月28日)
新株予約権の数(個)	1,520	1,450
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式(注)1	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	152,000(注)2	145,000
新株予約権の行使時の払込金額(円)	271(注)3	同左
新株予約権の行使期間	自平成28年3月29日 至平成30年3月28日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 271 資本組入額 136	同左
新株予約権の行使の条件	(注)4	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡による取得については、取締役会の承認を要する。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5	同左

(注)1. 普通株式は完全議決権株式とし、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式とする。

2. 当社が株式無償割当、株式分割又は株式併合を行う場合、当社は次の算式により目的株式数を調整する。

調整後目的株式数 = 調整前目的株式数 × 無償割当、分割又は併合の比率

3. 当社が株式無償割当、株式分割又は株式併合を行う場合、当社は、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{無償割当、分割又は併合の比率}}$$

4. 新株予約権者は、新株予約権の割当後、当社もしくは当社子会社の取締役、監査役又は従業員の地位を喪失した場合、当該喪失以降、新株予約権を行使することができない。

新株予約権者の相続人は、本新株予約権を行使することができない。

新株予約権の譲渡、質入その他一切の処分は認めない。

5. 当社は、当社株主総会及び取締役会決議において定めるところに従い、当社を消滅会社とする合併、当社を分割会社とする吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転を行う場合において、それぞれ合併契約等の規定に従い、本新株予約権の新株予約権者に対して、それぞれ合併後存続する株式会社等の新株予約権を交付することができる。

平成26年3月28日定時株主総会決議に基づく平成26年7月9日取締役会決議（第8回ストックオプション第2回割当）

区分	事業年度末現在 (平成26年12月31日)	提出日の前月末現在 (平成27年2月28日)
新株予約権の数(個)	79	同左
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	-	-
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式(注)1	同左
新株予約権の目的となる株式の数(株)	7,900(注)2	同左
新株予約権の行使時の払込金額(円)	279(注)3	同左
新株予約権の行使期間	自平成28年7月11日 至平成30年3月28日	同左
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 279 資本組入額 140	同左
新株予約権の行使の条件	(注)4	同左
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡による取得については、取締役会の承認を要する。	同左
代用払込みに関する事項	-	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)5	同左

(注)1. 普通株式は完全議決権株式とし、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式とする。

2. 当社が株式無償割当、株式分割又は株式併合を行う場合、当社は次の算式により目的株式数を調整する。

$$\text{調整後目的株式数} = \text{調整前目的株式数} \times \text{無償割当、分割又は併合の比率}$$

3. 当社が株式無償割当、株式分割又は株式併合を行う場合、当社は、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{無償割当、分割又は併合の比率}}$$

4. 新株予約権者は、新株予約権の割当後、当社もしくは当社子会社の取締役、監査役又は従業員の地位を喪失した場合、当該喪失以降、新株予約権を行使することができない。

新株予約権者の相続人は、本新株予約権を行使することができない。

新株予約権の譲渡、質入その他一切の処分は認めない。

5. 当社は、当社株主総会及び取締役会決議において定めるところに従い、当社を消滅会社とする合併、当社を分割会社とする吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転を行う場合において、それぞれ合併契約等の規定に従い、本新株予約権の新株予約権者に対して、それぞれ合併後存続する株式会社等の新株予約権を交付することができる。

## ( 3 ) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## ( 4 ) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## ( 5 ) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年7月1日 (注)	8,911,980	9,002,000	-	459,634	-	336,409

(注) 平成25年2月26日開催の取締役会決議により、普通株式1株を100株に分割しております。

## ( 6 ) 【所有者別状況】

平成26年12月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株 式の状況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	1	12	52	3	7	10,388	10,463	-
所有株式数 (単元)	-	3	172	579	4,020	11	85,227	90,012	800
所有株式数の 割合(%)	-	0.00	0.19	0.64	4.47	0.01	94.68	100.00	-

## (7)【大株主の状況】

平成26年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合 (%)
吉田 重久	東京都港区	5,485,300	60.93
ステート ストリート バ ンク アンド トラスト カ ンパニー 505224 (常任代理人 株式会社みず ほ銀行決済営業部)	P.O.BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A  (東京都中央区月島四丁目16-13)	400,000	4.44
日本和装ホールディングス社 員持株会	東京都千代田区丸の内一丁目2-1	227,300	2.52
日本和装加盟店持株会	東京都千代田区丸の内一丁目2-1	215,600	2.39
篠原 裕和	東京都新宿区	36,757	0.40
礪波 修	京都市北区	35,000	0.38
日本和装講師持株会	東京都千代田区丸の内一丁目2-1	32,200	0.35
橋本 茂	栃木県下都賀郡壬生町	31,200	0.34
伝統衣装普及促進協同組合	福岡市中央区渡辺通五丁目25-15	31,000	0.34
在間 文人	名古屋市北区	27,600	0.30
計	-	6,521,957	72.45

(注) フィデリティ投信株式会社から平成26年11月21日付の大量保有報告書の変更報告書の写しの送付があり、平成26年11月14日現在で400,000株を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として期末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、フィデリティ投信株式会社の大量保有報告書の変更報告書の写しの内容は以下のとおりであります。

大量保有者	エフエムアール エルエルシー
住所	米国 221 マサチューセッツ州ボストン、サマー・ストリート245
保有株券等の数	株式 400,000株
株券等保有割合	4.44%



## ( 8 ) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成26年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,001,200	90,012	-
単元未満株式	800	-	-
発行済株式総数	9,002,000	-	-
総株主の議決権	-	90,012	-

## 【自己株式等】

平成26年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

## ( 9 ) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、ストックオプション制度を採用しております。当該制度は、会社法の規定に基づき、新株予約権を発行する方法によるものであります。

当該制度の内容は、次のとおりであります。

(平成26年3月28日定時株主総会決議)

会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき、当社の取締役及び従業員に対し、ストックオプションとして新株予約権を発行することを平成26年3月28日の定時株主総会において特別決議されたものであります。

決議年月日	平成26年3月28日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 5名 当社従業員 142名 子会社役員及び従業員 19名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況 第8回ストックオプション」に記載しております。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	「(2)新株予約権等の状況 第8回ストックオプション」に記載しております。

(平成26年3月28日定時株主総会決議)

会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき、当社の取締役及び従業員に対し、ストックオプションとして新株予約権を発行することを平成26年3月28日の定時株主総会において特別決議されたものであります。

決議年月日	平成26年3月28日
付与対象者の区分及び人数	当社従業員 16名
新株予約権の目的となる株式の種類	「(2)新株予約権等の状況 第8回ストックオプション第2回割当」に記載しております。
株式の数(株)	同上
新株予約権の行使時の払込金額	同上
新株予約権の行使期間	同上
新株予約権の行使の条件	同上
新株予約権の譲渡に関する事項	同上
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	「(2)新株予約権等の状況 第8回ストックオプション第2回割当」に記載しております。

(平成26年3月28日定時株主総会決議)

会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき、当社の取締役及び従業員に対し、ストックオプションとして新株予約権を発行することを平成26年3月28日の定時株主総会において特別決議されたものであります。

決議年月日	平成26年3月28日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 4名 当社従業員 62名 子会社役員 1名
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式 (注) 1
株式の数(株)	180,000(注) 2
新株予約権の行使時の払込金額(円)	267(注) 3
新株予約権の行使期間	平成29年3月28日から平成30年3月28日とする。
新株予約権の行使の条件	(注) 4
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権の譲渡による取得については、取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	-
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注) 5

(注) 1. 普通株式は完全議決権株式とし、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式とする。

2. 当社が株式無償割当、株式分割又は株式併合を行う場合、当社は次の算式により目的株式数を調整する。

調整後目的株式数 = 調整前目的株式数 × 無償割当、分割又は併合の比率

3. 当社が株式無償割当、株式分割又は株式併合を行う場合、当社は、次の算式により行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{無償割当、分割又は併合の比率}}$$

4. 新株予約権者は、新株予約権の割当後、当社もしくは当社子会社の取締役、監査役又は従業員の地位を喪失した場合、当該喪失以降、新株予約権を行使することができない。

新株予約権者の相続人は、本新株予約権を行使することができない。

新株予約権の譲渡、質入その他一切の処分は認めない。

5. 当社は、当社株主総会及び取締役会決議において定めるところに従い、当社を消滅会社とする合併、当社を分割会社とする吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転を行う場合において、それぞれ合併契約等の規定に従い、本新株予約権の新株予約権者に対して、それぞれ合併後存続する株式会社等の新株予約権を交付することができる。

## 2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

該当事項はありません。

## 3【配当政策】

当社は、株主尊重の立場から、株主利益を守り継続かつ安定した配当を実施することが経営の重要な要素であると認識しており、配当に対する基本的な考え方としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。当社の剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会であり、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の期末配当につきましては、当社の剰余金の配当に対する基本方針に基づき、経営基盤の安定を図るための内部留保の確保にも配慮しつつ、業績動向等を総合的に勘案して決定いたしました。また、内部留保金につきましては、財務体質の強化及び今後の事業展開に資する所存であります。

当社は、「取締役会の決議により、毎年6月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成26年7月9日 取締役会決議	18,004	2
平成27年3月28日 定時株主総会決議	27,006	3

## 4【株価の推移】

## (1)【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第25期	第26期	第27期	第28期	第29期
決算年月	平成22年12月	平成23年12月	平成24年12月	平成25年12月	平成26年12月
最高(円)	35,800	33,900	31,450	28,500 311	292
最低(円)	25,500	23,000	25,400	22,990 248	260

- (注) 1. 最高・最低株価は、平成22年4月1日から大阪証券取引所JASDAQ市場におけるものであり、平成22年10月12日から大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)、平成24年2月27日から東京証券取引所市場第二部におけるものであります。それ以前はジャスダック証券取引所におけるものであります。
2. 当社株式は、平成24年2月27日をもって、東京証券取引所市場第二部に上場いたしました。なお、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)については、平成24年4月11日に上場廃止の申請を行い、同年5月26日に上場廃止しております。
3. は、平成25年7月1日付で1株を100株に株式分割したことによる権利落後の最高・最低株価を示しております。

## (2)【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成26年7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	287	282	287	286	292	291
最低(円)	274	270	279	273	277	264

- (注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

## 5【役員 の 状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長	営業本部長	吉田 重久	昭和37年11月8日生	昭和59年3月 個人にてデリコを創業 昭和61年7月 有限会社デリコ(現当社)設立 代表取締役 昭和62年11月 個人にて九州和装振興協会(平成15年1 月「日本和装振興協会」へ名称変更)を 創業 平成6年9月 有限会社ワイズ・アソシエイツ(その後 株式会社へ組織変更)設立 代表取締役 平成7年4月 有限会社日本和装文化研究所(その後株 式会社へ組織変更)設立 代表取締役 平成9年10月 砂研株式会社(その後株式会社バイオメ ンターへ商号変更)代表取締役 平成10年11月 有限会社フロムノース(その後株式会 社へ組織変更)設立 代表取締役 平成11年11月 日興企業株式会社設立 代表取締役 平成12年8月 有限会社ワソウ・ドットコム設立 代表取締役 平成15年10月 株式会社ヨシダホールディングス(現当 社)代表取締役社長(現任) 平成19年5月 当社全般担当執行役員 日本和装クレジット株式会社 代表取締役社長(現任) 平成19年11月 日本和装マーケティング株式会社 代表取締役社長 平成23年11月 Nihonwasou(Thailand)Co.,Ltd. 代表取締役社長(現任) 平成24年4月 株式会社メインステージ 代表取締役社長 平成24年10月 当社営業本部長(現任) 平成24年12月 NIHONWASOU FRANCE SAS 代表取締役社長(現任) 平成25年3月 株式会社はかた匠工芸 代表取締役社長 平成25年11月 日本和装ダイレクト株式会社 代表取締役社長(現任) 平成25年11月 株式会社はかた匠工芸 取締役 平成26年9月 Nihonwasou International Business Head Quarter株式会社 代表取締役社長 (現任)	(注)3	5,485,300
取締役	加盟店 担当	藤永 新一	昭和39年9月19日生	昭和63年4月 株式会社二興入社 平成8年11月 株式会社吉田商店(現当社)入社 平成20年4月 当社営業担当執行役員営業部長 平成20年7月 当社取締役営業担当執行役員 平成21年3月 日本和装マーケティング株式会社取締役 平成21年4月 当社取締役営業本部長 平成21年6月 日本和装クレジット株式会社取締役 平成21年10月 当社常務取締役営業本部長 平成23年1月 当社上席営業担当執行役員 平成24年10月 当社常務取締役営業企画担当 平成26年3月 当社専務取締役営業企画及び加盟店担当 平成27年1月 当社取締役加盟店担当(現任)	(注)3	4,200

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	管理本部長 経理財務 担当	菅野 泰弘	昭和47年4月24日生	平成10年4月 有限会社土井税務会計事務所入社 平成12年4月 東北和装振興協会入社(平成15年1月 「日本和装振興協会」へ名称変更) 平成14年2月 株式会社フロムノース監査役 平成15年9月 株式会社吉田商店(現当社)監査役 平成15年12月 当社監査役辞任 当社入社 平成17年10月 当社取締役 平成20年4月 当社取締役経理担当執行役員 平成20年8月 日本和装マーケティング株式会社取締役 平成21年3月 日本和装クレジット株式会社取締役(現 任) 平成21年4月 当社取締役管理本部長 平成24年2月 当社上席管理担当執行役員 平成24年3月 株式会社はかた匠工芸取締役 当社常務取締役管理本部長 平成27年1月 当社取締役管理本部長経理財務担当(現 任)	(注)3	6,900
取締役	管理本部長 総務担当	佐藤 正樹	昭和34年6月1日生	昭和59年4月 株式会社海事プレス社入社 平成3年7月 有限会社ドミナ代表取締役 平成23年8月 当社入社 平成24年4月 株式会社メインステージ取締役(現任) 平成24年9月 当社総務担当執行役員 平成25年3月 当社取締役 平成25年7月 当社取締役PR及び営業企画担当 平成26年3月 当社常務取締役営業企画及びPR担当 平成27年1月 当社取締役管理本部長総務担当(現任)	(注)3	2,200
取締役	営業担当	小熊 康宏	昭和48年3月27日生	平成13年10月 中国和装振興協会(現当社)入社 平成24年1月 当社営業担当執行役員 平成26年3月 当社取締役営業担当(現任)	(注)3	2,800
取締役		荻原 純一	昭和41年8月26日生	昭和63年4月 帝国警備保障株式会社入社 平成13年10月 株式会社コムネット代表取締役(現任) 平成22年5月 株式会社ファステップス監査役(現任) 平成25年3月 当社取締役(現任)	(注)3	-
常勤監査役		松本 順一朗	昭和27年2月5日生	昭和50年4月 株式会社住友銀行(現株式会社三井住友 銀行)入行 平成18年5月 株式会社ノエビア(現株式会社ノエビア ホールディングス)常勤監査役 平成24年9月 株式会社パソナフォーチュン特別顧問 平成26年3月 当社常勤監査役(現任)	(注)4	-
監査役		二反田 友次	昭和35年5月22日生	昭和60年10月 等松・青木監査法人(現有限責任監査法 人トーマツ)入所 平成5年9月 二反田公認会計士事務所開設 平成17年6月 当社監査役(現任)	(注)4	2,500
監査役		三好 豊	昭和43年11月26日生	平成7年4月 弁護士登録(東京弁護士会) 平成7年4月 森綜合法律事務所(現 森・濱田松本法 律事務所入所(現任)) 平成16年5月 ニューヨーク州弁護士登録 平成25年3月 当社監査役(現任)	(注)5	-
計						5,503,900

- (注) 1. 取締役荻原純一は、社外取締役であります。
2. 常勤監査役松本順一朗、監査役二反田友次及び監査役三好豊は、社外監査役であります。
3. 平成26年3月28日開催の定時株主総会の終結の時から選任後2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時株主総会の終結の時まで。
4. 平成26年3月28日開催の定時株主総会の終結の時から選任後4年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時株主総会の終結の時まで。
5. 平成25年3月27日開催の定時株主総会の終結の時から選任後4年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時株主総会の終結の時まで。

## 6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社は、事業の基本は社会のお役に立つものでなければならない、人のためになければならない、また、そうすることがひいては株主や全ての利害関係者の利益につながるとの信念を持っております。コーポレート・ガバナンスについては、そうした考え方と姿勢を基本にすることが必要であると考えており、意思決定の迅速化、コンプライアンス体制の充実及び経営責任の明確化を重点項目として、確立に取り組んでおります。

当社は、コーポレート・ガバナンスの確立が、企業価値増大のための重要課題であると認識しております。

#### 企業統治の体制

##### ( ) 企業統治の体制の概要

当社は、企業統治機関として、次の2機関を設置しております。

##### a. 取締役会

経営の意思決定及び監督につきましては、取締役会において行っております。取締役会は、より綿密な意思疎通を図り、迅速かつ的確に意思決定を行うことができるよう社外取締役1名を含め取締役6名で構成されております。取締役会は、原則として毎月1回開催されており、必要に応じ臨時取締役会を開催しております。取締役会では、付議事項の審議及び重要な報告がなされております。これら取締役会において各取締役が業務執行の状況を監視しております。

取締役につきましては、業務執行の妥当性（効率性）並びに違法性の検証を行うとともに、取締役会の一員として責任をもって相互に牽制を行うよう申し合わせております。

##### b. 監査役会

監査役監査につきましては、当社は監査役会制度を採用しております。監査役は、取締役会の他、重要な会議に出席し取締役の職務執行を十分に監視できる体制になっております。監査役3名のうち1名は常勤監査役であり、業務執行の状況や会社のコンプライアンスの問題を日常業務レベルで監視する体制が出来上がっております。

また、内部統制部門による内部統制の整備運用状況については内部監査室との連携を深めております。さらに、監査法人との連携により内部統制の整備運用状況のみならず、会計監査についても意見の交換を行っております。

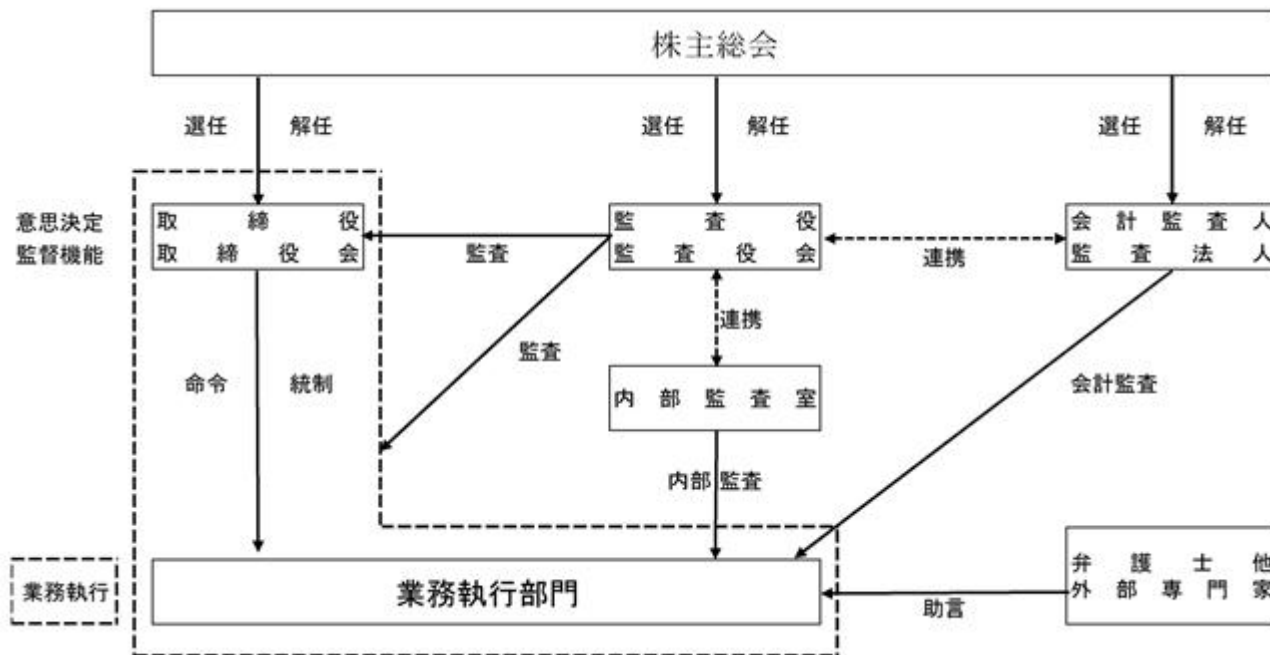
##### ( ) 前項記載の企業統治の体制を採用する理由

当社は、コーポレート・ガバナンスの重点項目として、意思決定の迅速化、コンプライアンス体制の充実及び経営責任の明確化を掲げ、その確立に取り組んでおりますが、このためには業務執行機能と監督機能を充実させることが必要であると考えております。

このために取締役会に期待される意思決定及び監督機能を強化し、業務執行責任を明確化するために、意思決定の機能を取締役に残し、業務執行については業務執行取締役を選定しております。

また、当社は会社法上の大会社ではありませんが、監査役の監査機能を強化するために監査役会を設置しております。なお、監査役全員が社外監査役であり、社外監査役としての監査を実施することにより当該機能を強化しております。





( ) 内部統制システム及びリスク管理体制の整備の状況

a. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社は、コンプライアンスの問題について、法令及び諸規則等の遵守についての考え方を関係諸規程に反映させることとし、その運用に全社を挙げて取り組んでおります。

コンプライアンスに関する意識の向上と実践を求めることを目的に、クレーム対応部署が中心となり、各種テーマを設けて定期的に研修を開催し周知徹底を図っております。

さらに、コンプライアンスに関する問題への対応強化を目的とし、責任者として取締役管理本部長を任命し、内部監査室とともに、会社のコンプライアンスの問題を日常業務レベルで監視する体制となっております。

内部監査は子会社も含めた全部署を対象に業務監査を計画的に実施しております。

内部通報制度規程に基づき、取締役や使用人の不正を発見した場合など、法令遵守に係る違反事実等を、通常の伝達ラインとは別に設けております。

その他、顧問弁護士、顧問税理士、顧問社会保険労務士、監査法人及びコンサルタント等の助言を参考に、コンプライアンス体制の確立に取り組んでおります。

b. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

当社は、取締役会をはじめとする重要な会議の意思決定に係る記録や取締役が職務権限規程に基づいて決裁した文書等、取締役の職務執行に係る情報を文書又は電磁的媒体に記録し、法令及び文書管理規程等に基づき、定められた期間保存しております。また、取締役及び監査役はそれらの文書を随時閲覧できる体制となっております。

c. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社は、各種リスクの軽減及び回避のため経営計画にその施策を反映させることはもとより、諸問題発生時には、情報の把握、集約及び共有化を図る観点から社内情報共有サイトのトップページに関連情報を掲載するとともに、担当取締役の指示のもと、問題解決に向けての行動が即時に執られる体制となっております。また、当該リスクの顕在化によって経営に与える影響が小さくないと判断された場合は、速やかに取締役会において必要な対策を検討する体制となっております。

d. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社は、経営の意思決定及び監督については取締役会が行い、また、取締役会では、社外取締役や社外監査役を含め、自由闊達な議論を重ねております。なお、取締役会は、原則として毎月1回開催されており、必要に応じ臨時取締役会を開催しております。

e. 当社並びに子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社は、当社の取締役が子会社の取締役を兼務し、また、子会社の総務及び人事並びに経理及び財務の機能を当社の管理本部が担うことにより、企業集団における業務の適正を確保することに努めております。

- f. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項並びにその使用人の取締役からの独立性に関する事項
- 当社は現在、監査役の職務を補助すべき使用人はおりませんが、監査役が職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合、監査役の業務補助のため監査役スタッフを置くこととし、その人事については、取締役と監査役が意見を交換することといたします。また、監査役が指定する補助すべき期間は、指名された使用人への指揮権は監査役に委譲されたものとし、取締役の指揮命令は受けないことといたします。
- g. 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制、その他の監査役への報告に関する体制
- 当社は、監査役3名のうち1名が常勤監査役として社内の動きを常時監視できる体制をとっており、取締役及び使用人から随時報告を受ける体制となっております。
- h. その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- 監査役と代表取締役社長は、必要に応じて面談し、経営方針その他必要事項について相互理解を深めております。また、取締役及び使用人は、監査役が必要に応じて弁護士、公認会計士等から監査業務に必要な助言を受ける機会を妨げてはならないこととなっております。
- i. 反社会的勢力排除に向けた基本方針
- 当社は、代表取締役社長を中心に、コンプライアンス体制の充実と強化を図るべく、役職員の行動規範を整備し、一般社団法人日本経済団体連合会が定めた「企業行動憲章」の精神に則り、反社会的勢力との絶縁に努めております。
- 暴力団等の反社会的勢力への対応責任者として取締役管理本部長を任命し、管理本部内に専任者を置いて、公安委員会等が実施する講習会を受講するなど、問題を処理できる人材の育成に努めております。
- 各契約企業、加工業者及び小物メーカーの新規の取引開始、業務委託契約時など外部の者との継続的な取引を開始するにあたっては、専用の調査システムを用い、必要に応じて民間の調査機関に委託して反社会的勢力との繋がりが無いかを調査しております。
- 暴力団又は暴力団員と思しき者からアプローチがあった場合は、直ちに対応責任者に報告されるシステムを構築しております。
- j. 財務報告の信頼性を確保するための体制
- 当社は、財務報告に係る内部統制の信頼性の評価及び外部報告を、金融商品取引法をはじめ関係法令の定めるところに従って実施することとしております。
- 当社は、財務報告に係る内部統制の有効性の評価にあたって、一般に公正妥当と認められる評価の基準に準拠した手続を定め、これに従うこととしております。
- 当社は、財務報告に係る内部統制の有効性を確保するため、定期的に全社を対象とした内部監査を実施し、不備や重大な欠陥の発見並びに是正を行い、継続的に改善に努めることとしております。
- 経営者に求められている有効な内部統制の整備及び運用並びに財務報告に係る内部統制の評価及び外部報告を補佐する組織を設けて万全の対応をとることとしております。

#### ( ) 責任限定契約の内容の概要

常勤監査役松本順一郎、監査役二反田友次及び監査役三好豊と当社は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しております。なお、当該契約に基づく責任の限度額は、法令が規定する額であります。

#### 内部監査及び監査役監査の状況

内部監査につきましては、社長直属の内部監査室を設置しており、専任1名体制により関係会社も含めた全部署を対象に業務監査を計画的に実施しております。監査結果は、社長に報告しております。また、被監査部門に対しては、監査結果の報告に対し、改善事項の指摘を行い、監査後は改善の進捗状況を報告させることにより、実効性の高い監査を実施しております。なお、内部統制部門による内部統制の整備運用状況について、監査法人との連携を図ることにより内部監査室による内部監査及び監査法人による内部統制監査の効率化に努めております。

監査役監査につきましては、各監査役は監査役会が定めた監査計画、監査の方針及び業務分担などに従い、取締役会における意思決定の適法性、妥当性並びに執行役員の業務執行の妥当性を監査しております。なお、定例の監査役会においては、相互に職務の状況について報告を行うことにより、監査実施の内容を共有化しております。また、内部監査室と必要に応じて情報や意見の交換を行い監査役監査の実効性と効率性の向上を目指しております。

なお、監査役二反田友次は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当の知見を有するものであります。

## 会計監査の状況

当社は、有限責任監査法人トーマツと金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査について監査契約を締結し、当該監査法人の監査を受けております。

当社では、有限責任監査法人トーマツによる会計監査を通じて、財務数値の正確性を担保、適正な財務報告の体制と情報開示の強化に努めております。

なお、平成26年12月期における会計監査体制は、次のとおりとなっております。

( ) 公認会計士の氏名等

指定有限責任社員 業務執行社員 磯俣克平

指定有限責任社員 業務執行社員 伊藤次男

なお、継続監査年数については、全員が7年以下であるため記載を省略しております。

( ) 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 5名

## 社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は1名、社外監査役は3名であります。

社外取締役荻原純一と当社とは、人的関係、資本的関係及び取引関係その他の利害関係はありません。また、同氏は株式会社コムネットの代表取締役及び株式会社ファステップスの社外監査役であります。両社と当社とは、いずれも人的関係、資本的関係及び取引関係その他の利害関係はありません。

社外監査役松本順一郎と当社とは、人的関係、取引関係及びその他の利害関係はありません。

社外監査役二反田友次は、当社の株主であり、その状況は「第4提出会社の状況 5 役員の状況」の所有株式数の欄に記載のとおりであり、その他の人的関係、取引関係及びその他の利害関係はありません。

社外監査役三好豊及び同氏が所属する森・濱田松本法律事務所と当社とは、人的関係、資本的関係及び取引関係その他の利害関係はありません。

社外取締役又は社外監査役を選任するための基準又は方針について名文化したものではありませんが、社外取締役については、取締役会における監督機能を強化するという観点から、企業経営における実務経験を重視しております。また、社外監査役については、監査役という直接業務執行に関わらない役員であることから、特に独立性を求めています。そのために、公認会計士、弁護士といった独立性の高い職業専門家もしくは過去に監査役としての経験等を重視して選任しております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係につきまして、社外取締役及び社外監査役は、取締役会に出席し、内部監査室及び内部統制部門からの内部監査結果を含む内部統制システムの整備、運用状況及びコンプライアンスの状況について、必要な情報収集を行い、経営者としての経験や専門的な見地から適宜質問を行い、意見交換を行うなど連携を図っております。監査役監査においては「内部監査及び監査役監査の状況」に記載のとおり内部監査部門との連携をはかり、さらに監査法人と会計監査の状況について定期的に意見の交換を行い、これらの実施状況について監査役会において共有化しております。

## 役員報酬等

( ) 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	119,310	119,291	19	-	-	6
監査役 (社外監査役を除く。)	-	-	-	-	-	-
社外役員	13,504	13,499	4	-	-	5

( ) 役員ごとの連結報酬等の総額等

該当事項はありません。

( ) 使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

( ) 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社は、役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は定めておりません。

株式の保有状況

( ) 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額

該当する投資株式は保有しておりません。

( ) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

該当する投資株式は保有しておりません。

( ) 保有目的が純投資目的である投資株式の前事業年度及び当事業年度における貸借対照表計上額の合計額並びに

当事業年度における受取配当金、売却損益及び評価損益の合計額

該当する投資株式は保有しておりません。

取締役会にて決議できる株主総会決議事項

( ) 自己株式の取得

当社は、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するため、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって同条第1項に定める市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

( ) 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を可能とするため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議により、毎年6月30日の最終の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

取締役の定数

当社の取締役は、8名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議については、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数で行う旨及びこの選任決議は、累積投票によらない旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議については、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

## (2) 【監査報酬の内容等】

## 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	20,000	-	20,000	-
連結子会社	3,500	-	5,000	-
計	23,500	-	25,000	-

## 【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

## 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

## 【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査日数等を勘案したうえで決定しております。

## 第5【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度(平成26年1月1日から平成26年12月31日まで)の連結財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当事業年度(平成26年1月1日から平成26年12月31日まで)の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成26年1月1日から平成26年12月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成26年1月1日から平成26年12月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適正に把握し、会計基準等に適した処理ができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。また、会計基準等に関する講習会等に参加しております。

## 1【連結財務諸表等】

## (1)【連結財務諸表】

## 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当連結会計年度 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,910,147	1,141,944
営業未収入金	574,671	367,107
割賦売掛金	₃ 3,770,809	₃ 4,035,034
たな卸資産	₁ 140,386	₁ 103,270
前払費用	193,532	170,953
繰延税金資産	36,084	2,813
未収入金	348,318	586,555
その他	74,344	104,642
貸倒引当金	36,950	42,428
流動資産合計	7,011,345	6,469,893
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	284,262	321,992
土地	₃ 341,827	₃ 320,442
その他(純額)	47,823	33,553
有形固定資産合計	673,912	675,987
無形固定資産		
投資その他の資産	23,964	36,828
投資有価証券	₂ 23,930	₂ 14,101
敷金及び保証金	408,452	333,430
繰延税金資産	-	163,067
その他	24,608	42,394
投資その他の資産合計	456,992	552,993
固定資産合計	1,154,869	1,265,810
資産合計	8,166,214	7,735,703

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当連結会計年度 (平成26年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	35,682	46,269
短期借入金	3 3,180,876	3 1,912,856
1年内償還予定の社債	100,000	100,000
未払金	98,175	215,003
未払費用	77,743	78,687
未払法人税等	89,721	24,579
未払消費税等	52,402	10,738
前受金	424,530	334,082
営業預り金	10,949	15,786
割賦利益繰延	230,295	232,446
その他	28,704	45,491
流動負債合計	4,329,081	3,015,941
固定負債		
社債	250,000	150,000
長期借入金	3 735,388	3 2,347,860
その他	11,202	9,000
固定負債合計	996,590	2,506,860
負債合計	5,325,672	5,522,801
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	459,634	459,634
資本剰余金	336,409	336,487
利益剰余金	2,020,827	1,426,892
株主資本合計	2,816,871	2,223,014
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	6,072	15,862
その他の包括利益累計額合計	6,072	15,862
新株予約権	3,556	5,749
少数株主持分	26,187	-
純資産合計	2,840,541	2,212,901
負債純資産合計	8,166,214	7,735,703



## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)		当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)	
	売上高	6,056,050	5,776,497	
売上原価	740,538	1,775,981		
売上総利益	5,315,511	5,000,515		
販売費及び一般管理費	2,480,328	2,529,884		
営業利益又は営業損失( )	508,183	294,368		
営業外収益				
受取利息	397	383		
為替差益	3,309	3,171		
その他	3,029	8,884		
営業外収益合計	6,735	12,439		
営業外費用				
支払利息	41,000	54,063		
支払手数料	32,645	49,747		
固定資産除却損	2,972	5,527		
その他	4,168	10,032		
営業外費用合計	80,786	119,371		
経常利益又は経常損失( )	434,132	401,300		
特別利益				
持分変動利益	30,812	912		
受取補償金	-	42,388		
新株予約権戻入益	181	3,171		
特別利益合計	30,994	46,472		
特別損失				
減損損失	3,220,016	3,280,095		
店舗閉鎖損失	-	4,241,588		
特別損失合計	22,016	269,683		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失( )	443,110	624,511		
法人税、住民税及び事業税	87,451	37,776		
法人税等調整額	119,509	129,116		
法人税等合計	206,961	91,339		
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失( )	236,149	533,172		
少数株主利益又は少数株主損失( )	-	29,725		
当期純利益又は当期純損失( )	236,149	503,446		

## 【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失( )	236,149	533,172
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	1,420	9,789
その他の包括利益合計	1,420	9,789
包括利益	234,729	542,961
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	234,729	513,236
少数株主に係る包括利益	-	29,725

## 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日）

(単位：千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	459,634	336,409	1,857,478	2,653,521
当期変動額				
剰余金の配当			-	-
当期純利益			236,149	236,149
連結範囲の変動			72,800	72,800
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）				
当期変動額合計	-	-	163,349	163,349
当期末残高	459,634	336,409	2,020,827	2,816,871

	その他の包括利益累計額		新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	4,652	4,652	2,771	-	2,651,640
当期変動額					
剰余金の配当					-
当期純利益					236,149
連結範囲の変動					72,800
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	1,420	1,420	784	26,187	25,551
当期変動額合計	1,420	1,420	784	26,187	188,901
当期末残高	6,072	6,072	3,556	26,187	2,840,541

当連結会計年度（自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本			
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計
当期首残高	459,634	336,409	2,020,827	2,816,871
当期変動額				
剰余金の配当			90,020	90,020
当期純損失（ ）			503,446	503,446
連結範囲の変動			468	468
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）		78		78
当期変動額合計	-	78	593,935	593,856
当期末残高	459,634	336,487	1,426,892	2,223,014

	その他の包括利益累計額		新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	6,072	6,072	3,556	26,187	2,840,541
当期変動額					
剰余金の配当					90,020
当期純損失（ ）					503,446
連結範囲の変動					468
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	9,789	9,789	2,193	26,187	33,705
当期変動額合計	9,789	9,789	2,193	26,187	627,640
当期末残高	15,862	15,862	5,749	-	2,212,901

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失( )	443,110	624,511
減価償却費	84,912	114,966
減損損失	22,016	28,095
固定資産除却損	2,972	5,527
持分変動損益( は益)	30,812	912
新株予約権戻入益	181	3,171
貸倒引当金の増減額( は減少)	435	5,268
受取利息	397	383
支払利息	41,000	54,063
為替差損益( は益)	3,309	3,171
営業未収入金の増減額( は増加)	55,482	207,541
割賦売掛金の増減額( は増加)	2,138,605	264,224
たな卸資産の増減額( は増加)	21,649	23,888
前払費用の増減額( は増加)	46,462	8,091
未収入金の増減額( は増加)	146,704	237,832
営業未払金の増減額( は減少)	6,127	13,334
未払金の増減額( は減少)	57,604	124,553
未払費用の増減額( は減少)	338	1,374
前受金の増減額( は減少)	137,213	68,915
営業預り金の増減額( は減少)	944	4,837
割賦利益繰延の増減額( は減少)	163,454	2,151
その他	105,454	99,105
小計	1,495,794	526,505
利息の受取額	391	357
利息の支払額	36,271	53,731
法人税等の支払額又は還付額( は支払)	44,149	93,842
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,487,525	673,721
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額( は増加)	-	1,628
有形固定資産の取得による支出	109,955	214,442
無形固定資産の取得による支出	5,451	23,421
敷金保証金の増加額	65,055	50,769
敷金保証金の減少額	66,929	41,088
その他	71,127	92
投資活動によるキャッシュ・フロー	184,661	249,082

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額（は減少）	1,007,500	598,788
長期借入れによる収入	1,830,000	2,000,000
長期借入金の返済による支出	614,056	1,062,101
社債の償還による支出	100,000	100,000
配当金の支払額	-	90,020
少数株主からの払込みによる収入	57,000	1,850
その他	8,452	2,202
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>2,171,991</b>	<b>148,738</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,068	293
<b>現金及び現金同等物の増減額（は減少）</b>	<b>497,735</b>	<b>774,359</b>
現金及び現金同等物の期首残高	1,267,773	1,781,842
<b>連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額（は減少）</b>	<b>16,333</b>	<b>4,501</b>
現金及び現金同等物の期末残高	1,178,184	1,011,985

## 【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

## 1. 連結の範囲に関する事項

## (1) 連結子会社の数 9社

連結子会社の名称

日本和装クレジット株式会社

株式会社はかた匠工芸

日本和装ダイレクト株式会社

Nihonwasou International Business Head Quarter株式会社

NIHONWASOU USA, INC.

Nihonwasou(Thailand)Co.,Ltd.

NIHONWASOU VIETNAM Co.,Ltd.

Nihonwasou Trading Co.,Ltd.

NIHONWASOU FRANCE SAS

なお、前連結会計年度において非連結子会社であった日本和装ダイレクト株式会社は、重要性が増したため当連結会計年度から連結子会社に含めております。

また、Nihonwasou International Business Head Quarter株式会社は、当連結会計年度において新たに設立したため連結子会社に含めております。

## (2) 非連結子会社の名称等

株式会社メインステージ

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は小規模であり、総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

## 2. 持分法の適用に関する事項

## (1) 持分法適用の関連会社数

該当事項はありません。

## (2) 持分法を適用しない非連結子会社の名称等

株式会社メインステージ

(持分法を適用しない理由)

持分法を適用しない非連結子会社は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等からみて、持分法の対象から除いても連結財務諸表に及ぼす影響が軽微であるため、持分法の適用範囲から除外しております。

## 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

## 4. 会計処理基準に関する事項

## (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

持分法を適用していない非連結子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

その他有価証券

時価のあるもの

決算月の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

## たな卸資産

## 商品

個別法による原価法を採用しております。

## 製品及び仕掛品

移動平均法による原価法を採用しております。

## 原材料及び貯蔵品

最終仕入原価法を採用しております。

なお、貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。

## (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

## 有形固定資産（リース資産を除く）

建物（附属設備を除く）については定額法、その他の有形固定資産については定率法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3～29年

その他 2～8年

## 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

## リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

## (3) 重要な引当金の計上基準

## 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヵ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

## (5) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

## 売上高の計上基準

売上高のうち、当社の手数料売上高は、各契約企業と締結した販売業務委託契約に基づき、当社の受託業務が完了した日に計上しております。

## 従業員の退職金制度について

当社及び国内連結子会社の従業員の退職金制度については、公益財団法人東法連特定退職金共済会の特定退職金共済制度に加入しており、従業員の将来の退職給付について追加的な負担が生じないため、当該制度に基づく要拠出額をもって費用処理しております。

また、在外連結子会社については、従業員の退職金制度を設けておりません。

## 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。



(連結貸借対照表関係)

1. たな卸資産の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当連結会計年度 (平成26年12月31日)
商品及び製品	95,370千円	72,583千円
仕掛品	27,323	17,446
原材料及び貯蔵品	17,692	13,240
計	140,386	103,270

2. 非連結子会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当連結会計年度 (平成26年12月31日)
投資有価証券(株式)	13,930千円	4,081千円

3. 担保に供している資産

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当連結会計年度 (平成26年12月31日)
割賦売掛金	1,237,769千円	704,667千円
土地	217,085千円	63,762千円

担保付債務

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当連結会計年度 (平成26年12月31日)
短期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)	641,592千円	431,710千円
長期借入金	628,152	271,178

## (連結損益計算書関係)

1. 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下後の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。

前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)
- 千円	21,119千円

2. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)
広告宣伝費	1,042,726千円	1,102,117千円
支払手数料	459,286	543,210
給与手当	901,018	870,047
地代家賃	827,631	658,992

## 3. 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

前連結会計年度(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)

場所	用途	種類
神奈川県鎌倉市	商品展示場を兼ねた会員向け宿泊施設建設予定地	土地

当社グループは、原則として、事業用資産については事業所を基準とした資産のグルーピングを行い、事業の用に供していない資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、事業の用に供していない資産のうち、時価が下落した資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(22,016千円)として特別損失に計上しております。

なお、当資産グループの回収可能価額は不動産鑑定評価額により評価しております。

当連結会計年度(自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)

場所	用途	種類
神奈川県鎌倉市	商品展示場を兼ねた会員向け宿泊施設建設予定地	土地
福岡県大野城市	子会社工場・事務所	建物等

当社グループは、原則として、事業用資産については事業所を基準とした資産のグルーピングを行い、事業の用に供していない資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、建設計画に進捗のない土地の帳簿価額及び営業活動から生じるキャッシュ・フローが継続してマイナスの子会社の建物等の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(28,095千円)として特別損失に計上いたしました。

なお、回収可能価額は不動産鑑定評価額等に基づいて評価しております。

## 4. 店舗閉鎖損失

当連結会計年度(自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)

店舗閉鎖損失は、期中に閉鎖した営業拠点に関する固定資産除却損(主として建物附属設備164,737千円)及び賃貸借契約解約違約金(50,208千円)等であります。

## (連結包括利益計算書関係)

## 1. その他の包括利益に係る組替調整額

	前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)		当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)	
	為替換算調整勘定:			
当期発生額		1,420		9,789
その他の包括利益合計		1,420		9,789

## (連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)

## 1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末株 式数(株)
発行済株式				
普通株式	90,020	8,911,980	-	9,002,000
合計	90,020	8,911,980	-	9,002,000
自己株式				
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

(注) 普通株式の発行済株式数の増加は、平成25年7月1日付で1株を100株に株式分割したことによる増加であります。

## 2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる株 式の種類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (千円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 (親会社)	第6回ストックオプション としての新株予約権	-	-	-	-	-	468
	第7回ストックオプション としての新株予約権	-	-	-	-	-	2,702
連結子会社	第1回ストックオプション としての新株予約権(注)	-	-	-	-	-	384
合計		-	-	-	-	-	3,556

(注) 連結子会社の第1回ストックオプションとしての新株予約権は、権利行使期間の初日が到来しておりません。

## 3. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

該当事項はありません。

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成26年3月28日 定時株主総会	普通株式	72,016	利益剰余金	8	平成25年12月31日	平成26年3月31日

当連結会計年度（自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日）

## 1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数（株）	当連結会計年度増加 株式数（株）	当連結会計年度減少 株式数（株）	当連結会計年度末株 式数（株）
発行済株式				
普通株式	9,002,000	-	-	9,002,000
合計	9,002,000	-	-	9,002,000
自己株式				
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

## 2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権の 目的となる株 式の種類	新株予約権の目的となる株式の数（株）				当連結会計 年度末残高 （千円）
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社 （親会社）	第8回ストックオプション としての新株予約権（注） 1	-	-	-	-	-	723
	第8回（第2回割当）ス tockオプションとしての 新株予約権（注）2	-	-	-	-	-	25
連結子会社	第1回ストックオプション としての新株予約権（注） 3	-	-	-	-	-	5,000
合計		-	-	-	-	-	5,749

（注）1. 第8回ストックオプションとしての新株予約権は、権利行使期間の初日が到来しておりません。

2. 第8回（第2回割当）ストックオプションとしての新株予約権は、権利行使期間の初日が到来しておりませ  
ん。3. 連結子会社の第1回ストックオプションとしての新株予約権は、権利行使期間の初日が到来しておりませ  
ん。

## 3. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成26年3月28日 定時株主総会	普通株式	72,016	8	平成25年12月31日	平成26年3月31日
平成26年7月9日 取締役会	普通株式	18,004	2	平成26年6月30日	平成26年9月16日

## (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり 配当額 （円）	基準日	効力発生日
平成27年3月27日 定時株主総会	普通株式	27,006	利益剰余金	3	平成26年12月31日	平成27年3月30日

## (連結キャッシュ・フロー計算書関係)

## 1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)
現金及び預金勘定	1,910,147千円	1,141,944千円
預入期間が3ヵ月を超える定期預金	128,305	129,959
現金及び現金同等物	1,781,842	1,011,985

## (金融商品関係)

## 1. 金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については預金等の安全性の高い金融資産で行い、短期的な運転資金については主に銀行借入により調達する方針であります。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である営業未収入金及び割賦売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。敷金及び保証金は、差入先の信用リスクに晒されております。また、短期借入金、長期借入金及び社債は、流動性リスクに晒されております。

## (3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行に係るリスク)の管理

営業債権のうち営業未収入金については、相手先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、回収が遅延した場合には、督促など早期回収のための取り組みが行われております。割賦売掛金については、信用情報機関への照会により回収可能性を検討したうえで与信を行っております。また、敷金及び保証金については、差入時に差入先の信用状況等を検討するとともに、入居後も差入先の信用状況の変化について留意しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社グループにおける資金管理は当社が集中的に行っており、それらの情報を基に資金繰り管理を行っております。

## (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価のうち、市場価格がないものについては、合理的に算定された価額によっております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

前連結会計年度（平成25年12月31日）

	連結貸借対照表計上額	時 価	差 額
	千円	千円	千円
(1)現金及び預金	1,910,147	1,910,147	-
(2)営業未収入金	574,671		
貸倒引当金	667		
営業未収入金（純額）	574,003	574,003	-
(3)割賦売掛金	3,770,809		
貸倒引当金	36,283		
割賦売掛金（純額）	3,734,525	3,707,766	26,759
(4)未収入金	348,318	348,318	-
(5)敷金及び保証金	408,452	395,866	12,585
資産計	6,975,449	6,936,104	39,345
(1)短期借入金 1	2,526,276	2,526,276	-
(2)未払金	98,175	98,175	-
(3)社債 2	350,000	351,627	1,627
(4)長期借入金 3	1,389,988	1,392,298	2,310
負債計	4,364,440	4,368,378	3,937

当連結会計年度（平成26年12月31日）

	連結貸借対照表計上額	時 価	差 額
	千円	千円	千円
(1)現金及び預金	1,141,944	1,141,944	-
(2)営業未収入金	367,107		
貸倒引当金	-		
営業未収入金（純額）	367,107	367,107	
(3)割賦売掛金	4,035,034		
貸倒引当金	42,426		
割賦売掛金（純額）	3,992,607	3,961,478	31,128
(4)未収入金	586,555	586,555	-
(5)敷金及び保証金	333,430	312,323	21,107
資産計	6,421,643	6,369,409	52,233
(1)短期借入金 1	264,479	264,479	-
(2)未払金	215,003	215,003	-
(3)社債 2	250,000	251,708	1,708
(4)長期借入金 3	3,996,237	3,993,372	2,864
負債計	4,725,719	4,724,562	1,156

- 1．1年以内に返済予定の長期借入金を含めておりません。
- 2．1年以内に償還予定の社債を含めております。
- 3．1年以内に返済予定の長期借入金を含めております。

## (注) 1. 金融商品の時価の算定方法

資 産

## (1)現金及び預金、(2)営業未収入金、(4)未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (3)割賦売掛金

期末現在の残高について、回収可能性を加味した元利金の見積キャッシュ・フローを新規に同様の契約を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値を時価としております。

## (5)敷金及び保証金

期末現在の残高について、返還期日までのキャッシュ・フローを市場金利で割り引いた現在価値を時価としております。

負 債

## (1)短期借入金、(2)未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額に近似していることから、当該帳簿価額によっております。

## (3)社債

元利金の合計額を、新規に同様の社債発行を行った場合に想定される利率で割り引いて算定した金額を時価としております。

## (4)長期借入金

元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いて算定した金額を時価としております。

## 2. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（平成25年12月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,910,147	-	-	-
営業未収入金	574,671	-	-	-
割賦売掛金	2,276,326	1,454,668	39,814	-
敷金及び保証金	-	149,794	258,658	-
合計	4,761,145	1,604,463	298,472	-

当連結会計年度（平成26年12月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	1,141,944	-	-	-
営業未収入金	367,107	-	-	-
割賦売掛金	2,307,631	1,674,647	52,755	-
敷金及び保証金	155,632	177,797	-	-
合計	3,972,317	1,852,444	52,755	-



3. 社債、長期借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度（平成25年12月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	2,526,276	-	-	-	-	-
社債	100,000	100,000	100,000	50,000	-	-
長期借入金	654,600	457,710	196,458	13,008	13,008	55,204
合計	3,280,876	557,710	296,458	63,008	13,008	55,204

当連結会計年度（平成26年12月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	1,912,856	-	-	-	-	-
社債	100,000	100,000	50,000	-	-	-
長期借入金	-	1,424,977	854,671	13,008	13,008	42,196
合計	2,012,856	1,524,977	904,671	13,008	13,008	42,196

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループのうち、当社及び国内連結子会社2社に係る従業員の退職金制度については、公益財団法人東法連特定退職金共済会の特定退職金共済金制度に加入しております。また、在外連結子会社は、従業員の退職金制度を設けておりません。

2. 退職給付債務に関する事項

該当事項はありません。

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)
退職給付費用(千円)	8,046	8,725
費用認識した拠出額(千円)	8,046	8,725

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

該当事項はありません。

## (ストック・オプション等関係)

## 1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年 1月 1日 至 平成25年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年 1月 1日 至 平成26年12月31日)
販売費及び一般管理費	966	5,364

## 2. 権利不行使による失効により利益として計上した金額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成25年 1月 1日 至 平成25年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年 1月 1日 至 平成26年12月31日)
特別利益の新株予約権戻入益	181	3,171

## 3. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

## (1) スtock・オプションの内容

	第8回ストックオプション
付与対象者の区分及び人数	当社の取締役 5名 従業員 142名 子会社取締役及び従業員 19名
株式の種類別のストック・オプションの付与数(注)	普通株式 166,000株
付与日	平成26年 4月10日
権利確定条件	新株予約権者は、権利行使時においても当社もしくは当社子会社の取締役、監査役又は従業員の地位にあることを要するものとする。
対象勤務期間	自 平成26年 4月10日 至 平成28年 3月28日
権利行使期間	自 平成28年 3月29日 至 平成30年 3月28日

(注) 株式数に換算して記載しております。

	第8回ストックオプション(第2回割当)
付与対象者の区分及び人数	当社の従業員 16名
株式の種類別のストック・オプションの付与数(注)	普通株式 7,900株
付与日	平成26年7月10日
権利確定条件	新株予約権者は、権利行使時においても当社もしくは当社子会社の取締役、監査役又は従業員の地位にあることを要するものとする。
対象勤務期間	自 平成26年 7月10日 至 平成28年 7月10日
権利行使期間	自 平成28年 7月11日 至 平成30年 3月28日

(注) 株式数に換算して記載しております。

株式会社はかた匠工芸第1回新株予約権	
付与対象者の区分及び人数	同社の取締役 3名 従業員 12名 顧問 2名
株式の種類別のストック・オプションの付与数(注)	普通株式 18,500株
付与日	平成25年12月1日
権利確定条件	新株予約権者は、権利行使時においても同社もしくは同社の子会社の取締役、監査役、顧問、従業員又はこれに準じる地位にあることを要するものとする。ただし、任期満了による退任又は定年退職その他同社取締役会において正当な理由がある場合と認められた場合は、この限りではない。
対象勤務期間	自 平成25年12月1日 至 平成27年11月30日
権利行使期間	自 平成27年12月1日 至 平成30年11月30日

(注) 株式数に換算して記載しております。

(2) スtock・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	第8回 ストックオプション	第8回(第2回割当) ストックオプション	株式会社はかた匠工芸 第1回新株予約権
権利確定前 (株)			
前連結会計年度末	-	-	18,500
付与	166,000	7,900	-
失効	14,000	-	1,000
権利確定	-	-	-
未確定残	152,000	7,900	17,500
権利確定後 (株)			
前連結会計年度末	-	-	-
権利確定	-	-	-
権利行使	-	-	-
失効	-	-	-
未行使残	-	-	-

単価情報

	第8回 ストックオプション	第8回(第2回割当) ストックオプション	株式会社はかた匠工芸 第1回新株予約権
権利行使価格 (円)	271	279	1
行使時平均株価 (円)	-	-	-
公正な評価単価(付与日) (円)	12.7	12.7	500

## 4. スtock・オプションの公正な評価単価の見積方法

## (1) 第8回ストックオプション

当連結会計年度において付与されたストック・オプションについての公正な評価単価の見積方法は以下のとおりであります。

使用した評価技法 ブラック・ショールズ式

主な基礎数値及び見積方法

	第8回 ストックオプション	第8回(第2回割当) ストックオプション
株価変動性 (注)1	13.53%	13.53%
予想残存期間 (注)2	3年	3年
予想配当 (注)3	8円/株	8円/株
無リスク利率 (注)4	0.10%	0.10%

(注)1. 3.0年間(平成23年4月25日から平成26年4月10日まで)の株価実績に基づき算定しております。

2. 十分なデータの蓄積がなく、合理的な見積りが困難であるため、権利行使期間の中間点において行使されるものと推定して見積もっております。

3. 平成25年12月期の配当実績によっております。

4. 予想残存期間に対応する期間に対応する日本国債の利回りであります。

## (2) 株式会社はかた匠工芸第1回新株予約権

連結子会社株式会社はかた匠工芸が平成25年12月1日付で付与したストックオプションの単価は、付与時点で同社が未公開企業であるため、単位当たり本源的価値を見積る方式により算定しております。また、単位当たりの本源的価値の見積方法は、同社株式の評価額から権利行使価格を控除する方式で算定しており、同社株式の評価方法は、簿価純資産額法とDCF法の折衷法に基づく方式によっております。

## 5. スtock・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

## 6. スtock・オプションの本源的価値により算定を行う場合の当連結会計年度末における本源的価値の合計額

当連結会計年度末における本源的価値の合計額 8,732千円

## (税効果会計関係)

## 1. 繰延税金資産の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当連結会計年度 (平成26年12月31日)
繰延税金資産		
税務上の繰越欠損金	30,739千円	210,572千円
未払事業税	8,495	2,125
連結会社間内部利益消去	18,221	14,773
資産除去債務	24,848	25,093
減損損失	7,846	17,972
店舗閉鎖損失	-	57,156
その他	11,718	18,068
繰延税金資産小計	101,870	345,761
評価性引当額	65,786	179,880
繰延税金資産合計	36,084	165,880

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当連結会計年度 (平成26年12月31日)
流動資産 - 繰延税金資産	36,084千円	2,813千円
固定資産 - 繰延税金資産	-	163,067

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当連結会計年度 (平成26年12月31日)
法定実効税率	38.0%	38.0%
(調整)		
評価性引当額の増減額	7.9	18.3
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.6	1.7
役員給与の損金不算入額	-	2.3
住民税均等割	2.0	1.4
持分変動利益	2.6	0.1
その他	0.2	0.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率	46.7	14.6

## 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する連結会計年度から復興特別法人税が廃止されることとなりました。これに伴い、当連結会計年度の繰延税金資産の計算に使用した法定実効税率は、平成27年1月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については従来の38.0%から35.6%に変更されております。

なお、この変更による影響は軽微であります。

## (資産除去債務関係)

当社グループは、不動産賃貸契約に基づく賃貸借期間終了時の原状回復義務を資産除去債務に関する会計基準の対象としております。

当社グループは、当連結会計年度末における資産除去債務について、負債計上に代えて、賃貸借契約に関連する敷金及び保証金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、当連結会計年度の負担に属する金額を費用に計上する方法によっております。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当社グループは、和服及び和装品の販売仲介を中心としたきもの関連事業の単一セグメントであるため記載を省略しております。

## 【関連情報】

前連結会計年度(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)

## 1. 製品及びサービスごとの情報

単一のサービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

## (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

(単位:千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
河瀬満織物株式会社	911,252	
となみ織物株式会社	892,837	

(注) 当社グループは、単一セグメントであるため、関連するセグメント名の記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)

## 1. 製品及びサービスごとの情報

単一のサービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

## (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
となみ織物株式会社	939,222	

(注) 当社グループは、単一セグメントであるため、関連するセグメント名の記載を省略しております。

## 【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)

当社グループは、単一セグメントであるため、注記を省略しております。

当連結会計年度(自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)

当社グループは、単一セグメントであるため、注記を省略しております。

## 【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)

当社グループは、単一セグメントであるため、注記を省略しております。

当連結会計年度(自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)

当社グループは、単一セグメントであるため、注記を省略しております。

## 【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)

該当事項はありません。

## 【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)

該当事項はありません。

## ( 1株当たり情報 )

	前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)
1株当たり純資産額	312円24銭	245円19銭
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額( )	26円23銭	55円93銭

(注) 1. 当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在するものの1株当たり当期純損失金額であるため記載しておりません。また、前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額		
当期純利益金額又は当期純損失金額( ) (千円)	236,149	503,446
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額又は当期純損失金額( )(千円)	236,149	503,446
期中平均株式数(株)	9,002,000	9,002,000
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	第6回新株予約権(新株予約権の数450個)、第7回新株予約権(新株予約権の数1,180個)及び株式会社はかた匠工芸第1回新株予約権(新株予約権の数18,500個)。	第8回新株予約権(新株予約権の数1,520個)、第8回新株予約権(第2回割当、新株予約権の数79個)及び株式会社はかた匠工芸第1回新株予約権(新株予約権の数17,500個)。

## ( 重要な後発事象 )

当社は、平成27年3月26日開催の取締役会決議に基づき、当社の取締役及び従業員並びに当社の子会社の取締役に対し、次のとおり、平成27年3月27日にストックオプションとしての新株予約権を付与いたしました。

なお、当該新株予約権の詳細は、「第4提出会社の状況 1株式等の状況 (9)ストックオプション制度の内容」に記載のとおりであります。



## 【連結附属明細表】

## 【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率(%)	担保	償還期限
日本和装ホールディングス(株)	日本和装ホールディングス株式会社第1回無担保社債	平成年月日 24.3.26	350,000 (100,000)	250,000 (100,000)	0.79	なし	平成年月日 29.3.24
合計	-	-	350,000 (100,000)	250,000 (100,000)	-	-	-

(注) 1. ( )内書は、1年以内の償還予定額であります。

2. 連結決算日後5年間の償還予定額は以下のとおりであります。

1年以内 (千円)	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
100,000	100,000	50,000	-	-

## 【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	2,526,276	264,479	1.022	-
1年以内に返済予定の長期借入金	654,600	1,648,376	1.282	-
1年以内に返済予定のリース債務	-	-	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	735,388	2,347,860	1.229	平成28年~35年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
その他有利子負債	-	-	-	-
合計	3,916,264	4,260,716	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	1,424,977	854,671	13,008	13,008

## 【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

## ( 2 ) 【その他】

## 当連結会計年度における四半期情報等

( 累計期間 )	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当連結会計年度
売上高 ( 千円 )	1,345,232	3,253,990	4,519,750	5,776,497
税金等調整前四半期純利益金額又は税金等調整前四半期 ( 当期 ) 純損失金額 ( ) ( 千円 )	454,895	127,926	255,536	624,511
四半期純利益金額又は四半期 ( 当期 ) 純損失金額 ( ) ( 千円 )	305,439	57,771	240,945	503,446
1 株当たり四半期純利益金額又は 1 株当たり四半期 ( 当期 ) 純損失金額 ( ) ( 円 )	33.93	6.42	26.77	55.93

( 会計期間 )	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
1 株当たり四半期純利益金額又は 1 株当たり四半期純損失金額 ( ) ( 円 )	33.93	40.35	33.18	29.16

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当事業年度 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,755,230	960,396
営業未収入金	1 637,731	1 391,636
前払費用	160,196	133,931
繰延税金資産	10,358	-
関係会社短期貸付金	43,696	69,624
未収入金	1 107,874	1 259,073
その他	69,646	51,498
流動資産合計	2,784,734	1,866,161
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	272,872	291,047
車両運搬具	14,292	9,496
工具、器具及び備品	21,080	21,768
土地	2 278,064	256,679
有形固定資産合計	586,310	578,991
<b>無形固定資産</b>		
のれん	1,344	672
ソフトウェア	11,928	6,338
電話加入権	331	331
その他	2,688	22,893
無形固定資産合計	16,292	30,235
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	10,000	10,000
関係会社株式	214,701	210,081
関係会社長期貸付金	55,097	55,097
長期前払費用	980	1,234
敷金及び保証金	395,227	316,987
繰延税金資産	-	163,067
投資損失引当金	-	80,000
貸倒引当金	55,097	55,097
投資その他の資産合計	620,910	621,370
<b>固定資産合計</b>	1,223,514	1,230,598
<b>資産合計</b>	4,008,249	3,096,759

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当事業年度 (平成26年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	17,435	14,757
短期借入金	<sup>2</sup> 125,000	-
1年内償還予定の社債	100,000	100,000
未払金	<sup>1</sup> 98,134	<sup>1</sup> 216,856
未払費用	73,040	71,114
未払法人税等	75,250	5,683
未払消費税等	52,402	13,887
前受金	334,537	246,986
営業預り金	10,949	15,786
預り金	16,973	26,061
その他	6,612	13,183
流動負債合計	910,337	724,317
固定負債		
社債	250,000	150,000
長期借入金	<sup>2</sup> 32,500	-
預り営業保証金	9,000	9,000
固定負債合計	291,500	159,000
負債合計	1,201,837	883,317
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	459,634	459,634
資本剰余金		
資本準備金	336,409	336,409
資本剰余金合計	336,409	336,409
利益剰余金		
利益準備金	3,114	3,114
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	2,004,081	1,413,534
利益剰余金合計	2,007,196	1,416,648
株主資本合計	2,803,239	2,212,692
新株予約権	3,171	748
純資産合計	2,806,411	2,213,441
負債純資産合計	4,008,249	3,096,759

## 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日)	当事業年度 (自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日)
売上高	1 5,786,951	1 5,315,302
売上原価	1 627,276	1 536,549
売上総利益	5,159,674	4,778,752
販売費及び一般管理費	1, 3 4,713,094	1, 3 5,067,883
営業利益又は営業損失( )	446,580	289,131
営業外収益		
受取利息	1 9,178	333
為替差益	3,262	3,509
その他	2,081	5,085
営業外収益合計	14,522	8,928
営業外費用		
支払利息	12,389	3,322
支払手数料	11,817	1,876
固定資産除却損	2,972	5,527
その他	3,355	6,769
営業外費用合計	30,534	17,496
経常利益又は経常損失( )	430,568	297,698
特別利益		
受取補償金	-	42,388
新株予約権戻入益	-	3,171
特別利益合計	-	45,560
特別損失		
減損損失	22,016	21,385
店舗閉鎖損失	-	4 241,588
関係会社株式評価損	-	49,975
投資損失引当金繰入額	-	2 80,000
特別損失合計	22,016	392,948
税引前当期純利益又は税引前当期純損失( )	408,552	645,086
法人税、住民税及び事業税	68,138	8,150
法人税等調整額	162,126	152,709
法人税等合計	230,264	144,559
当期純利益又は当期純損失( )	178,287	500,527

## 【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本						株主資本合計	新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金					
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
当期首残高	459,634	336,409	336,409	3,114	1,825,794	1,828,908	2,624,952	2,771	2,627,723
当期変動額									
剰余金の配当					-	-	-		-
当期純利益					178,287	178,287	178,287		178,287
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								400	400
当期変動額合計	-	-	-	-	178,287	178,287	178,287	400	178,687
当期末残高	459,634	336,409	336,409	3,114	2,004,081	2,007,196	2,803,239	3,171	2,806,411

当事業年度（自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本						株主資本合計	新株予約権	純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金					
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
当期首残高	459,634	336,409	336,409	3,114	2,004,081	2,007,196	2,803,239	3,171	2,806,411
当期変動額									
剰余金の配当					90,020	90,020	90,020		90,020
当期純損失（ ）					500,527	500,527	500,527		500,527
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）								2,422	2,422
当期変動額合計					590,547	590,547	590,547	2,422	592,969
当期末残高	459,634	336,409	336,409	3,114	1,413,534	1,416,648	2,212,692	748	2,213,441

## 【注記事項】

## (重要な会計方針)

## (1) 資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

その他の有価証券

時価のあるもの

決算月の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

たな卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品

最終仕入原価法を採用しております。

なお、貸借対照表価額については、収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。

## (2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

建物(附属設備を除く)については定額法、その他の有形固定資産については定率法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 3～29年

車両運搬具 6年

工具、器具及び備品 2～8年

無形固定資産

定額法を採用しております。なお、のれんについては、5年間で均等償却しております。また、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

## (3) 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

投資損失引当金

関係会社に対する投資等に係る損失に備えるため、将来発生する可能性のある損失見込額を計上しております。

## (4) その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

売上高の計上基準

手数料売上高は、各契約企業と締結した販売業務委託契約に基づき、当社の受託業務が完了した日に計上しております。

従業員の退職金制度について

従業員の退職金制度については、公益財団法人東法連特定退職金共済会の特定退職金共済制度に加入しており、従業員の将来の退職給付について追加的な負担が生じないため、当該制度に基づく要拠出額をもって費用処理しております。

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

## (表示方法の変更)

貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、有形固定資産等明細表、引当金明細表については、財務諸表等規則第127条第1項に定める様式に基づいて作成しております。

また、財務諸表等規則第127条第2項に掲げる各号の注記については、各号の会社計算規則に掲げる事項の注記に変更しております。

以下の事項について、記載を省略しております。

- ・財務諸表等規則第8条の6に定めるリース取引に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第8条の28に定める資産除去債務に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第68条の4に定める1株当たり純資産額の注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の3の2に定める減損損失に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の2に定める1株当たり当期純損益金額に関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の3に定める潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第121条第1項第1号に定める有価証券明細表については、同条第3項により、記載を省略しております。



## (貸借対照表関係)

## 1. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当事業年度 (平成26年12月31日)
短期金銭債権	230,206千円	99,443千円
短期金銭債務	13,538千円	19,007千円

## 2. 担保に供している資産

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当事業年度 (平成26年12月31日)
土地	217,085千円	-千円

## 担保付債務

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当事業年度 (平成26年12月31日)
短期借入金(1年内返済予定の長期借入金を含む)	26,000千円	-千円
長期借入金	32,500	-

## 3. 債務保証

次の関係会社の金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当事業年度 (平成26年12月31日)
日本和装クレジット株式会社	3,421,244千円	日本和装クレジット株式会社 3,870,651千円
Nihonwasou(Thailand)Co.,Ltd.	16,000	Nihonwasou(Thailand)Co.,Ltd. 18,350

## (損益計算書関係)

## 1. 関係会社との取引高

	前事業年度 (自平成25年1月1日 至平成25年12月31日)	当事業年度 (自平成26年1月1日 至平成26年12月31日)
営業取引による取引高		
売上高	305,070千円	332,508千円
仕入高	2,974千円	60,694千円
販売費及び一般管理費	129,540千円	136,033千円
営業取引以外の取引高	8,884千円	-千円

## 2. 投資損失引当金繰入額

当事業年度(自平成26年1月1日至平成26年12月31日)

関係会社株式に対するものであります。

## 3. 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度68.5%、当事業年度69.4%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度31.5%、当事業年度30.6%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成25年1月1日 至平成25年12月31日)	当事業年度 (自平成26年1月1日 至平成26年12月31日)
広告宣伝費	1,054,216千円	1,107,764千円
支払手数料	538,716	575,236
給与手当	861,461	837,962
地代家賃	597,061	631,832

## 4. 店舗閉鎖損失

当事業年度（自 平成26年1月1日 至 平成26年12月31日）

店舗閉鎖損失は、期中に閉鎖した営業拠点に関する固定資産除却損（主として建物附属設備164,737千円）及び賃貸借契約解約違約金（50,208千円）等であります。

## （有価証券関係）

子会社株式（当事業年度の貸借対照表計上額210,081千円、前事業年度の貸借対照表計上額214,701千円）は、市場価額がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価及び時価の差額については記載しておりません。

## （税効果会計関係）

## 1. 繰延税金資産の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当事業年度 (平成26年12月31日)
繰延税金資産		
税務上の繰越欠損金	- 千円	97,317千円
未払事業税	7,128	621
貸倒引当金	19,887	19,636
資産除去債務	24,848	25,093
減損損失	7,846	15,580
店舗閉鎖損失	-	57,156
関係会社株式評価損	3,658	21,469
投資損失引当金	-	28,512
その他	8,410	13,194
繰延税金資産小計	71,780	278,582
評価性引当額	61,422	115,514
繰延税金資産合計	10,358	163,067

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成25年12月31日)	当事業年度 (平成26年12月31日)
法定実効税率	38.0%	38.0%
（調整）		
評価性引当額の増減額	14.6	9.0
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.7	1.6
役員給与の損金不算入額	-	2.2
住民税均等割	2.1	1.3
その他	0.1	1.6
税効果会計適用後の法人税等の負担率	56.4	22.4

## 3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が廃止されることとなりました。これに伴い、当事業年度の繰延税金資産の計算に使用した法定実効税率は、平成27年1月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については従来の38.0%から35.6%に変更されております。

なお、この変更による影響は軽微であります。

## （重要な後発事象）

「1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項（重要な後発事象）」に記載のとおりであります。

## 【附属明細表】

## 【有形固定資産等明細表】

区分	資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期償却額 (千円)	当期末残高 (千円)	減価償却 累計額 (千円)
有形固定資産	建物	272,872	172,246	75,973	78,098	291,047	212,991
	車両運搬具	14,292	-	-	4,796	9,496	14,594
	工具、器具及 び備品	21,080	20,604	6,298	13,617	21,768	50,023
	土地	278,064	-	21,385 (21,385)	-	256,679	-
	計	586,310	192,850	103,656 (21,385)	96,512	578,991	277,609
無形固定資産	のれん	1,344	-	-	672	672	-
	ソフトウェア	11,928	1,100	-	6,690	6,338	-
	電話加入権	331	-	-	-	331	-
	ソフトウェア 仮勘定	2,688	20,204	-	-	22,893	-
	計	16,292	21,304	-	7,362	30,235	-

(注) 1. 建物の当期増加額の主なものは、着付教室、セミナー会場及び営業事務所を一体化した「オールインワン施設」の設置にともなうものであります。

2. 「当期減少額」欄の( )内は内書きで、減損損失の計上額であります。

## 【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	55,758	-	660	55,097
投資損失引当金	-	80,000	-	80,000

## (2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

## (3) 【その他】

平成26年7月9日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

配当金の総額・・・・・・・・・・18,004千円

1株当たりの金額・・・・・・・・・・2円00銭

支払請求の効力発生日及び支払開始日・・・・・・・・平成26年9月16日

(注) 平成26年6月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1月1日から12月31日まで				
定時株主総会	3月中				
基準日	12月31日				
剰余金の配当の基準日	6月30日 12月31日				
1単元の株式数	100株				
単元未満株式の 買取り・買増し 取扱場所	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部				
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社				
取次所					
買取・買増手数料	無料				
公告掲載方法	日本経済新聞に掲載する方法により行う。				
株主に対する特典	毎年6月末日及び12月末日現在の株主名簿に記録された株主に対し、保有株式数に応じて、以下の優待を進呈いたします。				
	6月末日現在の株主様		保有株式数	12月末日現在の株主様	
	日本和装での 買物3%割引券	きもの シミ抜き券 (5,000円 相当)		クオカードまたは VJAギフトカード	
	1枚		100株以上	500円分のクオカード	
		1枚	500株以上		
		2枚	1,000株以上	1,000円分	VJAギフト カード
			2,000株以上	2,000円分	
		3枚	3,000株以上	3,000円分	
			4,000株以上	4,000円分	
		4枚	5,000株以上	5,000円分	
7,000株以上			10,000円分		
10,000株以上	30,000円分				
15,000以上	50,000円分				

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
- (4) 単元未満株式の売渡請求をする権利

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第28期）（自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日）平成26年3月28日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

基準日（平成25年12月31日）平成26年3月28日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

第1四半期（第29期第1四半期）（自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日）平成26年5月13日関東財務局長に提出

第2四半期（第29期第2四半期）（自 平成26年4月1日 至 平成26年6月30日）平成26年8月12日関東財務局長に提出

第3四半期（第29期第3四半期）（自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日）平成26年11月12日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成26年10月2日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号（特定子会社の異動）に基づく臨時報告書であります。

平成27年3月31日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成27年 3月27日

日本和装ホールディングス株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	磯俣 克平	印
--------------------	-------	-------	---

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	伊藤 次男	印
--------------------	-------	-------	---

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本和装ホールディングス株式会社の平成26年1月1日から平成26年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本和装ホールディングス株式会社及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、日本和装ホールディングス株式会社の平成26年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、日本和装ホールディングス株式会社が平成26年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。



独立監査人の監査報告書

平成27年3月27日

日本和装ホールディングス株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 磯俣 克平 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 伊藤 次男 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本和装ホールディングス株式会社の平成26年1月1日から平成26年12月31日までの第29期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本和装ホールディングス株式会社の平成26年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。